

平成27年度第7回定例会

八王子市教育委員会議事録（公開）

日	時	平成27年7月29日（水）	午前9時
場	所	八王子市役所 8階	801会議室

第7回定例会議事日程

1 日 時 平成27年7月29日(水) 午前9時

2 場 所 八王子市役所 8階 801会議室

3 協議事項

平成28年度八王子市立中学校使用教科用図書の採択について (指導課)

出席者

教 育 長	坂 倉 仁
教育長職務代理者	金 山 滋 美
委 員	和 田 孝
委 員	星 山 麻 木
委 員	興 水 かおり

教育委員会事務局出席者

学 校 教 育 部 長	廣 瀬 勉
学校教育部指導担当部長	山 下 久 也
教 育 総 務 課 長	小 林 順 一
学 校 教 育 政 策 課 長	小 俣 勇 人
施 設 管 理 課 長	岡 功 英
保 健 給 食 課 長	野 田 明 美
教 育 支 援 課 長	穴 井 由 美 子
指 導 課 長	中 村 東 洋 治
教 職 員 課 長	廣 瀬 和 宏
統 括 指 導 主 事	佐 藤 晴 美
統 括 指 導 主 事	斉 藤 郁 央
生涯学習スポーツ部長	小 柳 悟
図 書 館 部 長	小 坂 光 男
指 導 課 指 導 主 事	野 村 洋 介
教 育 総 務 課 主 査	堀 川 悟
教 育 総 務 課 主 任	村 石 英 里
教 育 総 務 課 主 事	廣 瀬 桃 子
教 育 総 務 課 嘱 託 員	村 尾 ひ と み

八王子市立中学校使用教科用図書選定資料作成委員会

委 員 長	今 井 啓 之
副 委 員 長	高 塚 健 治
副 委 員 長	門 馬 弘
副 委 員 長	後 藤 貴 弓
教科別調査部会「理科」部長	守 屋 和 広
教科別調査部会「理科」副部長	邊 見 彰
教科別調査部会「音楽（一般、器楽合奏）」部長	前 田 賢 一
教科別調査部会「音楽（一般、器楽合奏）」副部長	古 怒 田 幸 一
教科別調査部会「美術」部長	市 場 陽 一 郎
教科別調査部会「美術」副部長	中 山 昇
教科別調査部会「保健体育」部長	大 越 洋 一
教科別調査部会「技術・家庭」部長	金 野 寛
教科別調査部会「技術・家庭」副部長	植 田 恭 正
教科別調査部会「外国語（英語）」部長	堀 内 雄 士
教科別調査部会「外国語（英語）」副部長	竹 内 康 裕

【午前9時00分開会】

○坂倉教育長 お待たせしました。本日の出席は5名全員でありますので、本日の委員会は有効に成立いたしました。

これより平成27年度第7回定例会を開会いたします。

本日は、大勢の傍聴人にお越しいただいております。八王子市教育委員会傍聴人規則では、第3条におきまして、傍聴人の定員は40名と定められているところですが、教育長が必要と認めるときは、これを変更することができるとの但し書きがございます。これに基づき、皆様の御要望にできる限りお応えすべく、前回に引き続き、今回も100席御用意しております。皆様の御期待に沿えるよう、我々も真剣に審議を行ってまいりたいと思います。

また、本市では地球温暖化対策、省資源化対策の一環として、節電等に取り組んでおります。本定例会においても、照明の一部消灯や、職員のクールビズを実施いたしておりますので、御理解いただきますようお願いいたします。

日程に入ります前に、本日の議事録署名員の指名をいたします。本日の議事録署名員は、金山滋美委員を指名いたします。よろしくをお願いいたします。



○坂倉教育長 それでは、協議事項「平成28年度八王子市立中学校使用教科用図書の採択について」を議題に供します。

本日の協議は、前回決定しましたとおり、事務局があらかじめ用意した意見集約用紙を配布後、種目ごとに資料作成委員会の報告、説明を受け、それに関して協議を行い、協議終了後に各委員の無記名による意見集約を行うという順序で行いたいと思います。

また、資料作成委員会に対する質疑が終了した後、委員の皆様の御意見を求める場を設けたいと思いますので、御意見があれば積極的に御発言いただきたいと思います。

意見集約用紙は、事務局が回収、保管し、次回8月5日開催の第8回定例会の中で集計いたします。各委員の選考状況を確認の上、必要に応じてさらに協議し、採択を行いたいと思います。

また、前回同様、本日の協議におきましても、興水委員より「自分は小学校の国語の教科書において、ある出版社の編集委員を務めた経験があり、本日、この出版社が採択候補を出している教科である美術と英語の採択については棄権させていただき、会場を退席させていただきたい」旨の申し出がありましたが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○坂倉教育長 御異議ないものと認めます。

本日、協議を予定している種目は、「理科」、「音楽一般」、「器楽合奏」、「美術」、「保健体育」、「技術」、「家庭」、及び「英語」の6教科8種目であります。

それでは、事務局から意見集約のための記入用紙を配付願います。



○坂倉教育長 それでは、協議を進めます。

理科について、資料作成委員会から御報告願いたいと思います。

○守屋教科別調査部会「理科」部長 理科の部長をさせていただいております、第二中学校校長の守屋でございます。よろしくお願いいたします。

○邊見教科別調査部会「理科」副部長 同じく、副部長をさせていただいております、ひよどり山中学校副校長の邊見でございます。よろしくお願いいたします。

○守屋教科別調査部会「理科」部長 それでは、理科について御説明させていただきます。

現在、八王子市で使用している教科書は啓林館でございます。平成20年の学習指導要領改定を受け、1から4の調査の観点のほかに、重要調査項目として、5の(1)から(4)を追加いたしました。

まず、理科は、学ぶ意義や有用性を実感させ、科学への関心を高めるため、実社会や実生活との関連を重視する内容を充実させる必要性が挙げられています。このことから、5の(1)として、日常生活との関係性を追加いたしました。

次に、科学的思考力、表現力の育成の観点から、実験・観察を主体的に行い、実験・観察結果を考慮し、導き出した自らの考えを表現する能力を育成することが挙げられています。このことから、5の(2)として、観察・実験のしやすさ、5の(4)として、表現活動がしやすいかを追加いたしました。

次に、科学に関する基本的概念の定着を図り、科学的な見方や考え方、総合的なものの見方を育成する際、小学校との接続にも十分配慮することが挙げられています。このことから、5の(3)として、小中一貫教育の視点を追加いたしました。

その他、発展的な内容については、学校において特に必要があると認めた場合、学習指導要領に示されていない内容を加えて指導することができると示されています。このことは、報告書の2の(2)に載せています。また、2(1)で御説明いたします。

さらに、環境教育の充実を図ることや、原理や法則の理解を目的とした物づくりの充

実を図ることが挙げられています。今回は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館の5社につき、報告書の調査の観点に沿って御説明いたします。

最初に1、内容について御説明いたします。

1（1）の発達段階に適しているかについては、別冊を含む各教科書は、単元ごとに基礎・基本問題、応用問題が載っており、発達段階に配慮されています。大日本図書と教育出版には発展的な内容が多く記載され、発展的な内容に興味・関心が高い生徒への配慮がしやすくなっています。

1（2）の興味・関心を引き出す配慮としては、報告書にあるように、各教科書に写真、イラストやさまざまなテーマを設け、興味・関心をもたせるようにしています。

1（3）の本市の学力の実態への配慮は、平成26年度に、2年生を対象に実施した東京都の生徒の学力向上を図るための調査結果で、理科の平均正答率、観点ごとの正答率など、東京都と八王子市の結果に大きな差はありませんでした。また、市内38校では、各学校によって学力の実態が異なります。その上、5つの教科書は、どの教科書も幅広い学力に対応できるようになっているため、部会では、本市の学力に配慮した教科書については、特に問題にはなりません。

次に、2、構成及び分量について、御説明いたします。

2（1）の配列については、教える順序は交互履修にするか、並列履修にするかなど、学校の実態によって異なります。部会では、各教科の配列について検討いたしました。まず、教科によって扱いやすい時期があるということです。

1年生の植物は、春の植物から始まるので、最初にもってくるほうがやりやすくなります。2年生は、科学の分野から始め、原子・分子といった粒子の概念から入ることによって、消化や天気とうまくつながっていくことが考えられます。3年生の星座については、オリオン座など、冬の星座を扱う場合は、後半にもってきたほうがわかりやすい星座が多いということがあります。このような配列になっているのが、東京書籍と大日本図書です。

次に、1分野を先行させるという配列です。これは、生徒は実験を好むため、最初に理科の授業に興味・関心をもたせるという意味があると考えられます。また、寒冷地や梅雨など、地域の状況を考慮して、1年生の最初に、季節に左右されない1分野からスタートするという理由もあります。このように、各学年、1分野を最初にもってきているのが学校図書、教育出版です。

啓林館は、各学年を生物・地球編、物質・エネルギー編の2つに分けています。また、1年生の植物は春の植物を最初にもってくるほうがやりやすいため、各学年とも2分野、1分野の順に配列されています。

全ての教科書に言えるのは、各学年の指導順は並びかえが可能ということです。学校の施設や地域の状況に応じた多様なカリキュラムに柔軟に対応することが可能です。

さらに、3年生の最後に扱っている主な内容は、東京書籍は単元5で、自然のなかの生物、自然環境と保全、災害、科学技術について。大日本図書は単元6で、自然環境、科学技術、エネルギー資源について。学校図書は最終単元で、自然と人間、科学技術と人間、自然環境の保全と科学技術について。教育出版は単元6で、生物と環境、災害、単元7で、科学技術、環境の保全について。啓林館は環境編として、自然界のつりあい、環境、自然が人間に及ぼす影響、科学技術の利用、環境保全について記載されています。

同じく2(1)の発展的な記述については、東京都の調査では、多い順に、大日本図書111か所、教育出版90か所、東京書籍76か所、啓林館66か所、学校図書49か所になっています。啓林館については、高校理科につながる内容にはマークがついています。

2(2)の分量については、各教科書とも学年にあった分量になっています。ページ数は、東京都の調査では、多い順に、啓林館は別冊「マイノート」を含む934ページ、大日本図書832ページ、学校図書801ページ、東京書籍799ページ、教育出版750ページになっています。

2(3)及び(4)については、各教科書の単元末や別冊の基本事項のまとめと、補充教材として基本的な問題を載せています。発展問題は単元ごとに、啓林館は「マイノート」に3ページ、教育出版は2ページ、東京書籍と学校図書は1ページ、大日本図書は読解力問題として半ページ載せています。

3、表記及び表現について御説明いたします。

3(1)の生徒にとって読みやすい表現では、重要項目の表記は教育出版だけが朱書きで、他の4つの教科書は黒のゴシック体で強調されています。

3(2)の印刷・写真等の見やすさは、各教科書が全ての生徒の色覚特性に配慮し、多くの人に必要な情報を伝えるように配慮されています。東京書籍は見やすく、読み間違いしにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。文字サイズは、どの教科書も読みやすい大きさになっています。教育出版の文字は、やや小さいのですが、読

みにくいという意見は出ませんでした。東京書籍は文字に光沢があり、はっきりしているのに対し、大日本図書、学校図書、啓林館は光沢が抑えられていて、目に優しいという意見も出されました。

次に、4、使用上の便宜について御説明いたします。

4（1）全体の構成が見渡せるよう配慮については、どの教科書も目次に単元名や章、教科書に使われているマークの説明が記載されており、全体構成がわかりやすくなっています。章の内容が細かく分かれて表記されているのは、大日本図書です。

4（2）については、全ての教科書の観察・実験は、準備、方法、結果、考察の順に記載され、実験がしやすくなっています。結果の表記方法で、東京書籍だけが記入式ではない方法をとっております。また、東京書籍、大日本図書、及び啓林館では、目的意識をもって主体的に観察・実験ができるように、目的が設定されています。学校図書と教育出版は、観察・実験の前に課題がクエスチョンマークで表記され、課題、実験の目的が明確化できるようになっています。

4（3）の印刷、装丁への配慮については、どの教科書もしっかりしたつくりになっているため、特筆すべきことはないいたしました。

4（4）の地域性への配慮では、八王子市について載っているのは大日本図書、教育出版、啓林館でしたが、特に教育出版では、メタセコイアの幹の化石や、象の足跡の化石の写真が載っています。啓林館では、市街地で見つかったステゴドン化石という表題と説明文があり、足跡の化石、牙の化石、上の歯の化石などの写真が掲載されています。身近なところから発見された化石が載っているということで、生徒は興味・関心をもつと考えられます。

次に5、重点調査項目について御説明いたします。

5（1）の日常生活との関連性で、各教科書とも報告書にあるように、興味・関心を引くテーマを設定し、多くの読み物を載せています。東京都の調査では、多い順に、教育出版155か所、大日本図書148か所、学校図書135か所、東京書籍115か所、啓林館104か所になっています。

5（2）の観察・実験のしやすさについては、観察・実験が主に右側1ページにまとめられているのは東京書籍、大日本図書、教育出版であり、右側1ページが多いが、左右見開きもかなりあるのが学校図書と啓林館です。どの教科書も、右側の配置が多くなっているのは、実験・観察を行う前に結果がわかってしまうことを避けるためです。し

かし、電気や力のように図や実験方法が多くなる場合は、左右見開きを使用しても差し支えないように思います。各教科書とも、観察・実験で教科書を開いている場合に、結果やまとめが見えないように工夫されています。

観察・実験の記載内容は、4の(2)と同様なので省略いたします。

5(3)については、どの教科書も小学校の振り返りが記載されています。章の初めに振り返りがあるのは東京書籍と学校図書。単元の初めと学習するページにあるのが大日本図書。章の初めと学習するページにあるのが啓林館。学習するページにあるのが教育出版です。

5(4)表現活動がしやすいかについては、どの教科書にも表現活動として、話し合い活動やレポートの書き方、または「わたしのレポート」という実践例を載せて配慮しています。

以上のように、各教科書とも、調査の観点について配慮された内容が書かれています。異なる主な点は、ページ数や発展的な記述を扱っている数、日常生活との関連性を扱っている数。ここでは触れませんでした。観察・実験数の多い順に、大日本図書、東京書籍、啓林館、教育出版、学校図書と違ってきます。さらに、啓林館に別冊「マイノート」と青シートがあること、配列の仕方が違うこと、振り返りの配置場所、地域性への配慮の有無、読み物教材の内容などの違いがあります。

以上で説明を終わります。

○坂倉教育長 ありがとうございます。

邊見先生、何かつけ加えることはございませんか。よろしいですか。

それでは、ただいま資料作成委員会の報告は終わりました。

理科について、御質疑があればお願いします。

○興水委員 ただいま御説明がありましたように、各社、いろいろ工夫をしておりますが、大きく違うのは構成だろうというふうに理解しながらお聞きしてました。どこから入るか、各学年どのようにするのかというところが違いだろうと。

そう考えますと、今お使いの啓林館については、全学年とも生物分野から入るということで、そのメリットのお話があり、この調査資料の中にも、単元に番号を記載していないため、教育課程の実態に応じて順序を変えやすいと書いてあるのですが、実際にお使いになってみて、他の会社との構成の違いで何か困るような、デメリットのようなことは全くないと考えてよろしいでしょうか。

○守屋教科別調査部会「理科」部長 先ほどお話ししましたが、順序を変えられるので、基本的には変えても大丈夫だということです。ただ、大きな違いは、この扱い方が、生物・地球編と、それから物質・エネルギー編という2分野と1分野に分けた編集の仕方になっているということです。

それで、1年生の植物については、やはり最初に扱ったほうが良いということなので、2分野のほうの生物・地球編を最初にもってきていると思います。

あと、デメリットとしては、それでもやはり順番にやっていったほうが、子どもたちにとっては飛び飛びにやるよりはわかりやすいという点はあるかもしれないということです。

○坂倉教育長 他にございますでしょうか。

○和田委員 だんだん教科書が図鑑化してきて、文字とのバランスというのが難しくなっているなという印象を受けます。どの会社も非常に写真であるとか図版をたくさん入れてきていて、授業の中でいろいろ提示をしていくということは大事なのですが、一つお聞きしたいのは、今の理科の授業の中で、例えばDVDを使ったりとか、映像を見せて実際にそういう授業をするような、そういう授業展開があるのか。つまり、教科書に出ている図版を説明するだけでも、ものすごく時間がかかってくると思うのですが、そういう授業の工夫というのは、実際に学校の中で行われているのか、それをまず一つお聞きしたいと思います。

それから、構成のことについてはよくわかったのですが、例えば、表現活動のところに記載されている、「話し合ってみよう」という設問が、各教科書会社についてあるんですね。「話し合ってみよう」という表現は同じなのですが、会社によって学習の初めに設定されているものと、学習の後に話し合いをするような設定になっているものがあります。そうすると、先にあるほうは、導入の部分での興味・関心を生徒たちの周辺の中から考えてみるという、学習する前の一般的な知識で考えていくわけですが、後半のほうは、少しまとまった意見などを出し合って、学んだことを生かして話し合うというように、意味合いが違うと思うのです。だけど、同じように項目がありますというだけになっているのだけれども、その使い方などというのは、どうなのでしょう。導入の段階での話し合い、終わりになったときの話し合いというのは、どういうふうにするのかということ。

例えば、啓林館では、最後のところに「エネルギーについて話し合ってみましょう」

という項目があるのですが、これは最終的にどういう話し合いの收拾をしていくのか。つまり、いろいろな発電に関するエネルギー確保の話し合いになっているわけですが、それを最後のところの話し合いにもっていくとすると、そこはどのような收拾の仕方をされているのか。将来、恐らくエネルギーのバランスを考えていく話し合いになっていくのだろうと思うのですが、そういう使い方の中で、先生方はどのようなお話をされているのかというのを、一つお聞きしたいと思います。

それから3つ目、細かいことですが、教科書によってペーパークラフトがついていますよね。これは、どうしてもこうやって教科書の中につけていないと学習が進まない、つまり、学校の中の理科教材や機器では補えないものなのか。こういう付録があると、子どもたちは喜んで作業をするわけですが、そのペーパークラフトというものを使うことによって、やはり学習上、意味があるのか。その辺のところをお話いただけますか。

○守屋教科別調査部会「理科」部長 1点目なのですが、視聴覚教材を中心に、他の教材も使っております。DVDであったり、少し前まではビデオを中心に使っていたときもありました。確かに、イラストが多くなったり写真が多くなってきているわけなのですが、そこでは補い切れない動画などについて使っているというところがあります。

それから2点目の「話し合ってみよう」についてなのですが、導入の部分とまとめの部分で、どのくらいの比率であるかというのはわからないのですが、やはり今、話し合い活動、表現活動が重視されている中で、結果から何が言えるのか、考察を導き出すというのが、非常に理科では大切になってくると思います。その考察を、みんなで話し合ってみよう。そこでは、いろいろな意見があっていいと思うのです。話し合った結果を発表させて、ああ、あの意見はなかなかいい意見だなとか、こういう意見もあるのかとか、そういうことを認識することが大事かなと考えています。

3点目のペーパークラフトについてですが、メリットとしては、先ほど、学習指導要領のところでも物づくりという話が出てきましたが、そのような点と、生徒の興味・関心を引くというようなことが考えられます。そういう点では意味があると思いますが、それを使わなければ授業が進まないということではございません。

○坂倉教育長 他にございますでしょうか。

○和田委員 学習の進め方で、「話し合ってみよう」を考察で扱うのはいいのですが、学校図書や教育出版は、前半に入れているわけなのですよね。そうすると、生活への興味・

関心との結びつきを考えていったときに、今の説明だと考察をすることが大事だという話になっているのだけれど、やはりこれから学ぶことが生活とどう関係しているのか、要するに生徒たちがどれだけ知識をもっているかということも考えて授業の初めに取り組んでいくということも必要になってくるというふうに考えてよろしいですか。

○守屋教科別調査部会「理科」部長 おっしゃるとおりで、先ほど考察の例を出しましたが、やはり興味・関心を引くということは、今、理科教育の中では非常に大事な点だと考えています。その場合に、最初の導入の段階で「話し合ってみよう」を扱うことは、非常に意味のあることだと考えております。

○和田委員 もう一つだけ。

啓林館の「マイノート」なのですが、これはサイエンスアプローチとステップアップになっていますよね。前半のほうは、応用やまとめの部分になっていて、後半のほうは練習問題になっていますよね。これは分冊になっているのですが、分冊の取り扱い、あるいはわざわざ分冊にしてまとめをしたり、練習問題をこれにつけなければいけないということについて、何か議論はございましたか。

○守屋教科別調査部会「理科」部長 別冊「マイノート」の使用については議論がありました。基礎的な知識の定着はもちろん、技能の定着や応用力の育成に利用することができます。授業の場面はもとより、基本のチェック、力だめしは必要かなと思います。

それから、実験や板書など、早く終わった生徒はすごく時間が余ってしまうので、早く終わった生徒がこれを使用したり、家庭学習にも利用できるということもございます。それから、「マイノート」を見れば、学習の履歴や定着度の確認もできるということがあります。

ただ、先ほど御指摘のとおり、別冊になっているのでなくしてしまったり、持ってこない生徒も確かに多いようです。その場合に、なかなか同じところを開いて練習問題をするということができないというデメリットは聞いております。

○坂倉教育長 他にございますでしょうか。

○金山委員 先ほど、生徒が主体的に取り組みやすいということで3社が挙げたのですが、基本的なことをお聞きして申し訳ないのですけれども、この場合の主体的にというのが、どういう意味をもっておっしゃっているのか、説明していただきたいです。

○守屋教科別調査部会「理科」部長 特に実験などはそうなのですが、わかりやすい表記になっていますので、私たちが指示を与えれば、すぐに子どもたちが自ら進んで準備、実

験、考察と進んでやっていけるというようなものを、主体的な学習とみています。特に実験のときには多いかなと思っています。

○坂倉教育長 他にございますでしょうか。

○星山委員 1点目は、やはり啓林館の別冊「マイノート」についてなのですが、肯定的に考えていらっしゃるのか、それとも問題点もあるなと考えていらっしゃるのか、そのところで、現場の声としては、なかなかいいよという意見が大勢なのかどうかというところを伺ってみたいです。

2点目は、やはりサイエンスの考え方というのは、科学に限らず物事を順序立てて考えるときにすごく必要だと思っていて、何か論理的に話すとき、あるいは何か自分の計画をもっとやりたいというときに、順序立てて考えるというところを、どの教科書もわかりやすく説明していると思うのですが、八王子の中学生の学力の実態と照らし合わせて、ずっとわかるものなのか、それとも相当丁寧に説明していく必要がある部分なのか、そういう生徒さんの実態について、参考程度に伺いたいのですが。

○守屋教科別調査部会「理科」部長 確かに、別冊「マイノート」については、教員によって扱い方が違うというのは現状でございます。うまく活用している教員もいれば、余り活用していない場合も実際あると思います。

ただ、今度の改定では、大分充実を図っています。カラーになったり、ページ数が増していたりということで、今までワークを使用していた教科書が、こちらの別冊で済ませることができるのではないかとこのところも考えております。教員の中にも、いろいろな御意見があるということです。

それから、計画立てて考えるということが、本市の学力の実態からしてどうなのかということなのですけれども、基本的に、全部同じように計画立ててできています。先ほどもお話ししましたように、本市の学力は、全体的に見れば東京都の平均という形で、どの観点もそういう形で出ていますので、十分全ての教科書で順序立ててやっておりますので、問題はないと考えております。

○坂倉教育長 他に、御質疑はございますでしょうか。

○興水委員 今、お使いになっている教科書は、例えば観察の進め方であったり、それから探究の仕方であったりというところで、非常に順番がわかりやすく子どもに示されているというのは、見ていてそうだなと思ったところです。

例えば、顕微鏡の扱いというのが、報告書にもいろいろ書いてございますが、各学年、

それぞれの巻末または付録のところで、毎年、顕微鏡の扱いについて取り扱っている教科書と、そうではなくて、学年が上がるごとに、プレパラートのつくり方であるとか、技能的に上がっている教科書と、同じ顕微鏡のところでも違いがあるかと思います。そこら辺、現場では使いやすいとか、または、もっとこれがあったほうがいいのはいかというような御意見は出ませんでしたか。

○守屋教科別調査部会「理科」部長 部会では、載っているか載っていないかという調査でしたので、そういう表記になりました。ただ、私の今までの経験から言うと、1年生で顕微鏡の勉強をして、2年生、3年生になって、では、顕微鏡を使おうということになったときに、なかなか使えない生徒もいるため、そこで復習の意味であるといいなというふうには思っております。

○坂倉教育長 他に、御質疑はございませんでしょうか。

すごくつまらないことを聞きますね。今回の教科書は、会社によって題名を「科学」と「理科」と「サイエンス」に分けているではないですか。一般的に言ったときに、教科は「理科」ですよ。もちろん、各社に思いがあってこれをつけていると思いますが、その辺のところ、特に議論はございませんでしたか。

○守屋教科別調査部会「理科」部長 その点については、特に話題にはなりませんでした。

○坂倉教育長 ありがとうございます。

特に御質疑はないようでございます。

何か御意見があればいただきたいと思っております。

○金山委員 八王子市は、JAXAとの連携も始まりましたし、理科はある意味とても大事な科目だと思っています。ですので、やはり子どもたちが主体的に取り組んで、自らを伸ばしていけるようなものを選びたいなと思っています。

○坂倉教育長 他に御意見はございますでしょうか。

「マイノート」の評価についてですが、小学校のときにも出ましたし、この間の数学の協議のときにも出たところで、御意見のとおりですよ。今の八王子の子どもの実態を見たときに、デメリットもあると思いますが、私はやはりこの考え方というのは評価したいと思いますし、それから、先ほど言った、これを使って他のサブ教材が要らなくなるという方向にぜひもって行ってほしいなという思いをもっています。内容がすごく難しいのは十分わかっているところなのですが、そういう意味で、私はそういうところは評価したいと思います。

他に、御意見はございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○坂倉教育長 なければ、次に行きたいと思います。ありがとうございました。



○坂倉教育長 次は、音楽一般なのですが、もし、御説明者のほうでよろしければ、音楽一般と器楽合奏、非常に内容が重なっていますので、御一緒にできるようでしたら御一緒にやっていただいて、質疑、それから意見も一緒にしていきたいと思いますが、大丈夫でしょうか。

○前田教科別調査部会「音楽」部長 説明のほうは大丈夫です。

○坂倉教育長 はい。それでは、資料作成委員から、御報告願います。

○前田教科別調査部会「音楽」部長 音楽科部長をさせていただいております、第五中学校校長の前田でございます。どうぞよろしく願いいたします。

○古怒田教科別調査部会「音楽」副部長 同じく、副部長をさせていただいております、みなみ野中学校副校長古怒田でございます。よろしく願いいたします。

○前田教科別調査部会「音楽」部長 現在、八王子市で使用している教科書は、教育芸術社でございます。音楽科の授業は、1年生が年間45時間、2年生・3年生が年間35時間です。週当たりに直しますと、1年生が1.3時間、2年生・3年生が1時間となります。この授業を通して、生徒に音楽科の目標である、豊かな情操をいかに養うことができるのか、教科書の存在は重要です。指導する教師側にとって、学ぶ生徒側にとってという視点で、教育出版と教育芸術社の2社の教科書について、観点に基づき調査研究を進めました。

それでは、まず、音楽一般について御報告をさせていただきます。

学校教育法及び学習指導要領総則において、基礎的、基本的な知識及び技能を習得させ、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、その他の能力を育むことが重要とされています。音楽科の学習指導においては、特に思考し、判断し、表現する。この流れを常に大切にしていくことが求められています。

具体的には、音楽に出会う。つまり、音楽を聞いたり、楽譜を見たりして、美しいな、豊かな響きだな、なぜこんな響きが生まれるのかな、なぜだろう、どうしてだろうと思ったり、考えたりすること、それが思考に当たります。この、音と音との重なりが美しい響きをかもし出しているのだ、ピアノシモが曲の緊張感を高めているのだ、この作

品は、作曲者が生きた時代の歴史的背景があるから情熱的なのだ、などと分析すること、これは、判断です。その結果、分析したことをもとに、楽曲の魅力を言葉で紹介したり、自分も同じように歌ってみたいなと思い、工夫して練習したり、オリジナル曲をつくってみようとリズムや旋律を重ね合わせたりしようとする、これが表現に当たります。

いずれの会社の教科書の内容、構成ともに、思考し判断し表現する過程への仕掛けが、大変工夫され、配慮されたものとなっています。

例えば、共通教材、教育出版では日本の歌、みんなの歌、教育芸術社では心の歌においては、豊かな色彩、さまざまな情景の写真が掲載されており、生徒が楽曲のイメージを膨らませ、歌詞の意味をより理解し、興味をもって歌唱表現へと結びつけられるように工夫されています。

また、教育出版ではメッセージ・フォー・ユー、教育芸術社では作詞者の言葉、作曲者の言葉により、楽曲に込められた思いや背景が丁寧に語られています。

音楽科の授業は、表現領域、歌唱・器楽・創作と、鑑賞領域、そして、それを支える共通事項を相互に関連させながら展開していきます。

教育出版の教科書では、楽譜右側に、この教材を通して学ぶ共通事項が示してあったり、歌唱教材下に、音のスケッチ、日本語の抑揚を生かした旋律をつくろうなど、創作との関連が示してあったりします。教育芸術社では、音楽学習マップにより、歌唱・創作・鑑賞の関連が一目でわかり、学習の窓口では共通事項が示してあります。

鑑賞においては、教育出版では、伝えてみようというコーナーを設け、根拠をもって批評し、音楽のよさや美しさをまとめる学習。教育芸術社では、ここに注目してみようというコーナーで変化をまとめたり、チャレンジでは演奏者による表現の違いを聞き比べたりして、課題発見できるヒントが提示されています。

楽譜を通して学習を深める場面の多い教科書です。楽譜の見やすさ、教材数や配列については、大切な部分だと思います。楽譜の見やすさでは、1年生の共通教材については、いずれの教科書も他の楽譜よりも5線譜の幅が0.5ミリ広くなっています。合唱曲の取り扱いにおいては、教育芸術社の楽譜では、縦書きの歌詞も多く扱われています。配列においては、歌唱共通教材では、教育出版社、1年生で「夏の思い出」、2年生・上で「浜辺の歌」を。鑑賞教材では、教育芸術社、2年生・3年生・下で「ブルタバ」の扱いが発達段階に適しているとの意見も調査委員から出されました。

このように、いずれの教科書も、指導する側も学習する側も、全体の構成を見渡し、

効果的に学習を進められる配慮がされています。

以上で音楽一般の報告を終了させていただきます。

○坂倉教育長 引き続き、器楽のほうは、古怒田副部長ですか。それとも前田部長。

○前田教科別調査部会「音楽」部長 では、音楽、器楽合奏について報告させていただきます。

現在、八王子市で使用している教科書は、教育芸術社でございます。

音楽一般と同様、教育出版と教育芸術社の2社について説明させていただきます。

器楽の授業は、課題を明確にして、主体的に学ぶ時間。つまり、練習を重ねて演奏できるようにする、自己と向き合う時間が必要になります。その際、生徒は、教科書の楽譜や解説、写真などを見ながら練習を進めることとなります。教科書の内容や構成、表記等は、生徒の音楽学習に大きな影響をもたらします。

2社ともに、目次を開ければ全体の構成をつかむことができ、狙いを確認しながら学習活動を進めることができます。また、音楽一般でもお話しいたしましたが、表現領域と鑑賞領域の系統性も図られています。

2社の大きな違いとしては、打楽器の取り扱いと楽曲数です。教育出版は、打楽器の扱いとしては和太鼓となります。教育芸術社は、和太鼓並びにコンガやボンゴなど、諸外国の打楽器の演奏方法にも触れられています。楽曲数としては、全体掲載数は教育出版が多いものの、異なる種類の楽器による合奏曲数としては、教育芸術社が多く掲載されています。

次に、主体的な学習を導くための工夫として、教育出版の教科書につきましては、解説が丁寧であり、演奏方法について、さまざまな角度からの写真が掲載されています。例えば、リコーダーでは、全体の運指表は最終とじ込みページに取り扱われているとともに、新たに加わった運指が楽曲、楽譜の横に示されています。ギターでは、コード表に押さえ方の写真が掲載されていたり、解説では演奏者の視点からの写真が掲載されていたりして、生徒の学習意欲を高める工夫がされています。

教育芸術社の教科書につきましても、解説は丁寧であり、写真の活用も工夫されています。例えば、リコーダーでは、運指表は見開きページに掲載されています。また、楽曲で使われる音域が、楽譜横に示されており、学習進度に合わせて取り組むことができます。箏の奏法では、指の動きが連続写真等を活用し、わかりやすく示されています。

器楽においては、特に和楽器の取り扱いが重要視されるところです。学習指導要領に

において、和楽器の指導については、3 学年間を通じて一種類以上の楽器の表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるように工夫することと示されています。表現活動を通して伝統文化を尊重する態度を養うという意味からも、両者ともに工夫が見られます。

教育出版では、ウィズ・マイ・ハート、奏でる喜びや、中とじページ、日本の楽器と音楽や、各楽器解説等において、長い時間をかけて生み出されてきた音楽文化と、それを守る人々の思いが表現されています。

教育芸術社では、楽器と出会う、奏者から皆さんへや、各楽器解説。例えば、箏の姿勢や礼儀では、日本人としての精神性なども表現されています。

以上、いずれの教科書も、生徒が主体的に課題解決を図り、学習を進めていく配慮がなされています。

以上で報告を終了いたします。

○坂倉教育長　　ただいま、資料作成委員会の音楽一般と器楽合奏についての説明が終わりました。御質疑がありましたら、お願いします。

○和田委員　　説明文の解釈を、少しお願いしたいのですが、例えば構成及び分量のところの（１）のところ、２つの会社が並んでいるのですが、教育出版のほうは、「組織配列への配慮」という言い方、教育芸術社のほうは、「系統的に配列」となっているのですが、これはどういうふうに違うのかということ。

それから、器楽合奏のほうもそうなのですが、１番の内容の（１）に、「発達段階に即した表現」というのと、「習熟度に応じて編曲されており」というのがあって、この辺、何か微妙に変えているようにも思いますけれど、これは明らかに音楽科としては、この表現に即した違いがあるというふうに感じていらっしゃるのか、少し説明をお願いします。

○前田教科別調査部会「音楽」部長　　微妙な変え方というところでは、大きな意図はありません。ですが、例えば一般ですと、先ほども申しましたが、曲の共通教材の配列であったり、鑑賞教材の配列などについての配慮という部分では、少し委員の中でも話が出たところがございます。

○和田委員　　組織と系統での違いを教えてください。

○前田教科別調査部会「音楽」部長　　組織と系統ですね。

○和田委員　　組織配列と、系統的な配列の違いと、先ほど言ったように、習熟度と発達段階

を、どういうふうに区別されているのか、教えてください。

○前田教科別調査部会「音楽」部長 組織配列と系統的な配列について、特に、教育出版のほうの組織配列といいますと、その鑑賞領域と表現領域の部分の配列の方法。系統配列について、教育芸術社では、表現と鑑賞の系統性で、教育出版においては、その単元における組織的な配列という意味で書かせていただきました。

また、器楽合奏のほうです。

発達段階と習熟度というところですが、教育芸術社の習熟度につきましては、これまでやってきた部分の積み重ねを、どういうふうに発展をさせていくのかというところで、例えばリコーダーに関しては、それぞれの音域の違いによって習熟度を展開できるように。さらに、楽曲の扱いに関しましても、後半部分のアンサンブルの曲につきまして、習熟度に合わせた曲の配列がされています。

以上です。

○坂倉教育長 私は、音楽一般の組織配列と系統的な配列は、よくわからないのだけれど、恐らく器楽合奏の発達段階と習熟度というのは、意味があるのではないのですか。何か説明になっていないように思うのですが。

教育出版のほうは、楽器の説明は、「発達段階に即した表現である」という言い方をしているのですよね。発達段階というのだから、1年生、2年生、3年生で、恐らく最初のリコーダーからギターとかが後ろに入ったときの、その説明の内容が、易しいものから徐々に難しくなっていくのかなと思ったのですが。

もう一方は、「楽曲は習熟度に応じて編曲されており」というのだから、前のほうの曲の、いわゆるアンサンブルとかアレンジは、そんなに複雑ではなく、みんなの合唱であったり、せいぜい二部合唱だったのが、後ろになると、例えば混声三部になったり、それから音が入ったり、その辺のことを言っているのかなと。私は、音楽は詳しくないけれども、恐らく和田委員はそういう説明が欲しいと思うのだけれど、その辺、どうなのですか。

私は、そういう意味で楽譜を見なかったのだけれど、もし、そういうところが非常に現場で大きいのであれば、それを参考にしなければいけないと思うので、恐らくそういう説明が欲しいのではないかなと思ったのですが。

単に、言葉あそびではなくて、何か意味があったと思うのだけれど、そこは違うのですかね。

○前田教科別調査部会「音楽」部長　それぞれ、一般のほうに関しましては、鑑賞の中で、あるいは歌唱の中での配列ということです。器楽においては、いわゆる発達段階というところで、その編曲の難易度が徐々に上げられているというところをお伝えしたかった部分です。

○星山委員　私は、中学、高校の音楽専門です。

私が気になるのは、取り上げられている曲と伴奏なのですが、両方とも、伴奏譜が入っているものと、例えばですけれども「旅立ちの日に」などは、伴奏譜を入れてほしいと思いますが、両社とも入っていません。実際、これを使うときには、伴奏譜を使っていると思うのですが、そういうときに、もちろん器楽もですが、その辺は、いつもどういうふうにしていらっしゃるのかというのが1点。

もう一点、器楽のほうに話が行ってしまうのですが、すごく日本のいろいろな楽器について、弾き方とか、演奏方法とかが入って、丁寧に説明してありますけれど、これは実際に授業でどの程度扱えるのかなということ。

楽譜というのは高いと思うのです。だから、生徒さんたちが共通に持っている教科書は、みんながすぐ使えるものだけでも、この曲とかこの伴奏とかは、みんなで持っていたいよねというものが教科書に含まれていたらいいなという思いがあります。すごく特殊なものであったり、誰かだけが一生懸命やればよいというものは、また別途でいいと思うのですが、教科書というものは、そういう意味ですごく大切なと思うのです。だから、授業で余り扱わないものなだけでも教科書に載っていると、それとも、すごくこれは教科書に欲しいのだけれども載っていないものがあるとか、ちょっとその辺の質のところ現場の先生の中で何か話題になっていたかなというところを伺ってみたいのですが、いかがでしょうか。

○前田教科別調査部会「音楽」部長　まずは、伴奏譜につきましてです。教育芸術社、教育出版、それぞれ合唱譜が載っています。それに対して、伴奏についてですけれども、市内38校調査をしまして、ほぼ全校が、副教材ということで合唱曲集を使っています。それは、音楽科の授業の中で使うのと同時に、特別活動の中で、学校行事、合唱祭が、多くの学校でありますので、そこで活用するなどして、3年間を通して使うというところで、そちらの楽譜を、伴奏を弾く生徒については使っているところです。

もう1点の、器楽の取り扱い等についてです。これも調査をさせていただきました。それぞれ1年生が年間で45時間、2年生・3年生は年間で35時間の音楽科の授業が

あります。その中で、器楽にかかわる時間数の平均としましては、市内1年生が7.5時間、2年生が6.4時間、3年生が5.7時間の扱いになります。それプラスアルファということで、1時間ずっと歌を歌っているわけではなく、同時並行でリコーダーを扱ってみたり、あるいは和楽器を扱ってみたりというような形です。大体、六、七時間が平均になっています。という意味では、この両社の教科書に載っている楽譜であれば、十分な部分だと思います。

○星山委員 わかりました。私がお伺いしたいのは、例えばお琴とか三味線とか、尺八の吹き方とか、ものすごく丁寧に両社とも載っていますけれども、果たしてこれは授業の中で扱われているのでしょうかということを、少し伺いたかったです。

○前田教科別調査部会「音楽」部長 和楽器の取り扱いにつきましては、八王子市では、箏を使っている学校が多いです。やはり、箏の指導に関しましては、音楽科が指導するとともに、地域の方々にも協力していただきながら指導を進める中では、この教科書の解説を大変活用させていただいているところです。

○金山委員 先ほど、合唱曲集を買うということでしたが、ほぼ全員が買っているということだと思うのです。教育出版のほうで、資料集などを使用しなくても学習を進められるとありますけれども、資料集というの、また別途買うことが多いのですか。

○前田教科別調査部会「音楽」部長 資料集につきましても、これも学校独自です。38校の中で3分の1ほどの学校が、資料集を活用した授業の展開をしています。

資料集に関しましては、特に鑑賞の分野に関しての資料が載っているものを使っています。

以上です。

○興水委員 先ほどあった、習熟度云々の話ですけれども、私は、これを見て、教育芸術社の「楽曲は習熟度に応じて」というのは、非常に個人差といいますか、やはり初歩から続けてやっても、それぞれ、興味・関心、技能の差がかなり出てきているところで、器楽演奏については、みんなで楽しんで音を合わせるという意味でも、習熟度を大事にする、それを考えた編曲がしてあるというのは大事なことなのだろうなと思いながらお聞きしていたのが1点です。

お尋ねしたいのは、八王子は、音楽鑑賞教室というのは1年生でおやりになるわけですよ。そのときに、もちろんその教室の中で楽器紹介とか音色紹介とか、さまざま工夫をされると思いますが、教科書の中に、それがきちんと1年生のときから位置づけら

れているというのは、ここではメリットとして書いていらっしゃると思いますが、そこら辺は、どういうふうな話になったのかをお聞かせいただきたいと思います。

○前田教科別調査部会「音楽」部長 報告書4番、使用上の便宜の(4)に書かせていただきましたが、委員の中からも、やはり音楽鑑賞教室は1年生で行われるというところで、この1年生の教科書にオーケストラの楽器紹介が載せられているというところは、非常に有効であるという話がありました。

以上です。

○坂倉教育長 音楽の授業で、歴史もある程度教えなければいけないであろうし、そういう中で楽器や合唱があるのだけでも、実際に八王子は本当に合唱祭とかにも一生懸命熱心に取り組んでいる形の中では、先ほど言った楽譜などは必要になると思うのです。伴奏においても。でも、全国的に見たときに、そこまでは音楽の予算の中でつくり切れないのかもしれないので、どうしても補助教材が必要になってくるのだろうけれど、流れとしては、保護者の負担などを考えても、なるべくどの教科も補助教材なしでやっていくというのが方向だと思うのです。それは、仕方がないところはあるのですが。それも含めて、少し採択と変わってしまうのですけれど、今の音楽の時間の実技や何かを含むものと教科書のあり方について、現場では、やはりここは使い勝手がよいとか、こういうふうに教えたりとかあるのかもしれないけれども、素朴に、本来の教科書の意味というのが、ちょっと難しいなと思ったので、何か御意見があったら聞きたいのですが。

○前田教科別調査部会「音楽」部長 非常に根本的な話の部分で、音楽科の非常に大きな課題です。音楽科が求めているものとしては、先ほどお話をさせていただいたところの、豊かな情操をいかに養っていくかというところですね。

そこで、解釈が間違ってしまうと、最終的に音楽を完成させればよい。一つの音楽を完成させるというふうに進んでしまいがちな部分が、音楽科の全国的な課題だと思います。そういった意味でも、教科書の存在というのは重要であり、それを確実に確認しながら授業を進めていく、展開をしていくというところでは、教科書は大事だと思っています。

○坂倉教育長 ある程度、演奏その他ではなくて、歴史も含めた中での長い歴史と感性的なものを、しっかり踏まえてほしいというようなことだと捉えました。

あと、最後に言っておきたいのですが、音楽一般と器楽がありますよね。仮に、教科書が変わった場合に不便があるかどうか、お聞きしたいと思います。

○前田教科別調査部会「音楽」部長 現在、教育芸術社を使っておりますが、もし、来年度、教育出版社になりますと、来年度の2年生、3年生につきましては、1年生のときに配られた教育芸術社の教科書を使う形になります。その部分では、子どもにとっては、大きな支障はないです。指導者にとっては、教科書が違うという部分では、また一からスタートというところで、ここは大きな課題があるとは思いますが。

○坂倉教育長 それは、例えば器楽と一般が分かれた場合でも同じなのですか。

○前田教科別調査部会「音楽」部長 はい。

○坂倉教育長 ほかに御質疑はございませんでしょうか。

○和田委員 実は、小学校の音楽の採択のときに強く感じたのは、教科書会社の作り方のコンセプトが、明らかに2社違うだろうというのを、如実に私は感じたのです。教育芸術社は「中学生の音楽」、小学校の教科書で言えば「小学生の音楽」。教育出版は、小学校の場合、「おんがくのおくりもの」という表現になっていて、そのコンセプトで、小学校の場合にはさまざまな、今まで取り扱わなかったような楽曲や、いろいろなポピュラーなものまで含めて、音楽を楽しみましょう、そういうコンセプトをすごく強く感じたのです。

今回の中学校の場合、この両社を比べてみると、そんなに変わりはないとなっていて、一方で、教育芸術社のほうで言えば、器楽のほうにおいても、習熟度に応じた丁寧な指導をしていきたいと思いますというような、そういう流れになっていますよね。それから、さらに教育芸術社のほうでは、これは東京都の資料なんかでも明らかになっているのですが、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を明らかにする具体的に示した箇所数が、倍以上多いのです。つまり、丁寧に音楽を勉強していこうというコンセプトが、教育芸術社のほうにはあるというような印象を受けるのです。

一方の、「音楽のおくりもの」のほうは、それにまさる以上にいろいろ子どもたちに音楽の楽しさを教えようという、そういうコンセプトが、余り今回の中学校の教科書では見受けられないというか、こちらに感じ取れないのですが、内容的にどうですか。曲の扱いだとか、内容の豊かさだとか、そういったものに違いが感じられますか。

○前田教科別調査部会「音楽」部長 調査研究委員会の中でも、やはり両社の教科書について、そういった全般的な話がありました。どちらかといいますと、教育出版社のほうは、非常に資料が多いです。また、写真掲載などもインパクトのあるものが扱われていて、短時間の中で授業を展開していくという意味で、子どもたちの興味・関心を引くという

意味では、いいのかなという部分がありました。

それに対して教育芸術社に関しては、大分ポイントが絞られて掲載されている。子どもたちが、常に思考判断をしていく、考えながら進めていく、あるいは自分自身の力で何かを調べたりする活動が必要だなという部分では、そういった子どもたちの力を身につけていくという点で、教育芸術社は有効かなという意見が出されました。

○興水委員 先ほどの教育長の質問に対してのお答えを、もう一回確認させてください。

きっと、変わればというのは、今使っているのと違う教科書になればというふうを受け取られたと思うのですが、私がお聞きしたいのは、その後のほうの、器楽とそれから一般というのは、非常に密接に関係していて、同じ教科書でないと教えるのいかどうかを教えてくださいたいと思います。

○前田教科別調査部会「音楽」部長 教科書のつくりでもありますが、やはり器楽と鑑賞、表現、そのほかの表現という部分での関連性に関しては、同じ教科書が関連させてつられているというところで、やはり同じ教科書のほうがやりやすいです。

○坂倉教育長 他に御質疑はございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○坂倉教育長 ありがとうございます。

それでは、資料作成委員の方々、退席なさって結構です。

御意見がございましたら、お願いします。

○星山委員 先ほど、和田委員がおっしゃったような、音楽に関して教科書会社は2つしかありませんので、両社の違いというのは、ある意味とてもありがたいと感じていましたが、今度の教科書は、とても似ているところが、逆に私は残念かなと思ったりしました。どちらかというところ、教育出版の方たちのコンセプトは、教育、広い意味での音楽という捉え方で、芸術というほうを追及していらっしゃるの教育芸術社かなと思ったのですが、今回は、何か曲の選び方も伴奏譜のつけ方も余りに似ていて、余りそういうところで平均的なものになっていくというのは、芸術のあり方からすると逆に少し違うかなという気もしました。うまく話せませんが、それぞれの信念を追及していただくというやり方もあるのではないかとというふうに、感想ですけれども思いました。

○坂倉教育長 選択するほうとしては、もっと思い切って差があったほうがいいと。

確かに、私も感じましたけれども、小学校のときのほうが、もう少し色というか差があったような気がしました。なかなか中学になってくると、教えるといえますか、学ぶ

プラス教えるところがあるので、似かよってきってしまうのも仕方がないかなという気もしますが、その辺もぜひ参考に、御判断いただきたいと思います。

それでは、他に御質疑はないようでありますので、次の種目に移ります。



○坂倉教育長 続いては、美術でございますので、興水委員には御退席願いたいと思います。

[興水委員退席]

○坂倉教育長 それでは、資料作成委員会から御説明をお願いしたいと思います。

○市場教科別調査部会「美術」部長 美術科部長をさせていただいております打越中学校校長の市場でございます。よろしくお願いいたします。

○中山教科別調査部会「美術」副部長 同じく、副部長をさせていただいております由井中学校副校長、中山です。よろしくお願いいたします。

○市場教科別調査部会「美術」部長 では、美術について、御報告をさせていただきます。

現在、本市では日本文教出版の教科書を使用しています。

美術の場合、発想を表現にいかにつなげるか、そこをポイントとして考えております。ですから、今回、この点を意識して調査をさせていただきました。

では、まず内容です。(1) 発達段階に即しているかという観点から見ますと、光村図書出版、日本文教出版ともに、学びの目標が明確に示されています。日本文教出版は3冊に分けられ、発達段階をより意識した構成となっています。

(2) 興味・関心を引き出す配慮については、各社とも原寸大の資料を提示し、興味・関心をもたせる工夫が見られます。学習を支える資料として、開隆堂は日本、世界のアーティストを紹介し、光村図書出版は日本と世界の美術や文化の紹介が豊富です。日本文教出版のほうは、生徒作品の参考例が豊富で、作者の言葉も掲載されています。

今回の傾向として、各社制作技法について、すごく丁寧に触れられている点が挙げられます。資料集としての活用も可能であるかと思えます。

開隆堂の色彩ホームページは、色についての基礎がわかりやすく工夫されています。光村図書出版は、さまざまな素材を網羅しており、日本文教出版は自然や環境とのつながりを意識した工夫があり、それぞれ制作への興味・関心を引き出す配慮を感じます。

(3) 本市の学力の実態についての配慮は、特に特出すべき点はありません。

では、2番の構成及び分量です。内容の組織配列、発展的図、並びに発達段階に配慮した分量に関してです。

各社とも、鑑賞のページを1か所にまとめずに、各領域の合間に組み入れています。また、生活の中での美術との関連性が多く取り上げられているように思います。また、素材ごとの可能性が示されています。

開隆堂、光村図書出版は、1年生に1冊の教科書で、身近なテーマを題材とし、絵画、彫刻の分野が多く取り上げられています。2年生、3年生の1冊の教科書では、広がりあるテーマを設定し、美術を通して内面や世界へと視野を広げていくことができるつくりとなっています。

日本文教出版は、1年生1冊の教科書では、身近なテーマを題材とし、どの分野もほぼ同量にまとめています。2年生、3年生は上下の2冊で、上巻は、絵画や彫刻を多くして内容を深め、下巻では、各領域をほぼ同量にまとめ、探究することによって、内面や世界へ目を向けさせる段階的なつくりとなっています。

(3) 基本事項の押さえ、補充教材に関してです。内容のところでも述べましたが、各社基本事項の押さえは行われており、技法や制作手順のページが多めに入っています。

(4) 発展教材の配慮に関してです。光村図書出版は、谷川俊太郎の詩を取り入れ、言語活動を通して作品の理解や発想につなげようとしているようです。光村図書出版、日本文教出版ともに1年生の最初に美術へのいざないの言葉が添えられ、2年生、3年生の終わりに生涯にわたって美術を愛好していこうとする言葉が添えられています。将来への発展につなげようとしています。また、道徳とのつながりを意識した記述もあります。

では、3番、表記及び表現です。

(1) 生徒にとって読みやすい表現という点で、開隆堂の特色を挙げます。原寸大ギャラリーで、実際の大きさを伝える工夫をしている。掲載作品は多いが、一つ一つの作品は小さい。資料が多く、サイズは標準的な大きさを使用しているなどです。

光村図書出版の特色です。ページの上部に目標が示されており、学習の内容や狙いが明確である。作品を原寸大で載せている。特別支援教育に関する校閲がされているなどが挙げられます。

日本文教出版に関してです。題材ごとに観点別の狙いを明示してあります。日本の伝統文化や遺産について、生徒が興味・関心を引くように、紙質や印刷が工夫されている点が特色となっています。また、特別支援教育に関する校閲もされています。

(2) 印刷、写真等の見やすさに関してです。

開隆堂について、同じページに複数の文字が混在している。情報量が多く、文字サイズが少し小さい。左右に引き出すページが多く見られるという特色が見られました。

光村図書出版は、すっきりとしたレイアウトで統一感がある。折り込みを活用し、大きな図版を効果的に位置づけている。教科書の裏面、裏表紙のところに、バーコードに美術科らしい工夫がされているというところが見られます。

日本文教出版については、統一感のある書体とレイアウトで、見やすい構成となるよう工夫がされています。折り込みがとても多く、浮世絵のところでは原寸大で紙質も変えているなどが挙げられます。

4番、使用上の便宜です。(1)全体の構成が明確化するように、配慮に関しては、各社とも領域ごとに構成がわかるようになっていますが、日本文教出版、光村図書出版は表現と鑑賞を分けて表示しています。

(2)課題発見と解決に向けた学習を効果的に進める配慮はあるかに関してです。日本文教出版、光村図書出版は、制作上で取り扱っているさまざまな技法が多く掲載されていて、各自が活用し、制作できるよう工夫されています。開隆堂は、振り返りの部分を利用して、授業の目当てとも、またまとめやすくなっています。そして、関連した内容のページ紹介なども多く入っていて、視野を広げやすくなっています。

(3)印刷、装丁への配慮に関してです。光村図書出版、日本文教出版は光沢紙で印刷がきれいである。開隆堂、光村図書出版は、2年生、3年生の教科書が1冊になり、使いやすいと感じる教員が多いようです。日本文教出版は、大きな装丁であり、2年生、3年生は上下2冊で従来どおりとなっています。

地域性に関してですが、特にここで述べることはありません。

5番、重点調査項目、(1)発想の展開につながる多種多様な表現が取り上げられているかについてです。

開隆堂に関して、美術1年生では、中学生の生活環境に即した題材や作品紹介がされていて、日本人が昔から使用している竹や木などを最新の技術と合わせるなど、材料への発想が提案されています。また、身近な昆虫を自然物や金属を使って制作したり、生活デザインに視点を置くなど、さまざまな発想を促している点が工夫を感じます。美術2年生、3年生では、作品の制作過程を説明して、表現の深まりを促しています。作家や表現動機など、表現の内容に迫る工夫があります。また、自国や海外作品の発想や技術を紹介することで、生徒の発想が広がるよう工夫されています。同じ課題作品でも、

同様な表現方法を紹介しています。

光村図書出版についてです。美術1では、素材や表現方法の基礎を重点的に説明し、身近にある素材から、多彩な創造を得ることができます。随所に、日本美術のかかわりについて記載し、日本文化への関心を高める工夫があります。木や石など、さまざまな素材を提示しています。気持ちや感情をあらわすデザインなど、発想の転換につながる教材があります。題材は複合的になっており、発想の多様さを促す工夫がされています。また、パッケージデザインなど、身近なものをデザインの対象にすることで、作品を提示しています。自国や海外の作品の発想や技術を紹介することで、自分の作品への深みにつながるということが工夫されています。

最後に、日本文教出版についてです。美術1年では、プロのデザイナーの発想から学ぶページがあり、素材や色に注目するなど、発想の幅を広げる内容が多いです。美術2年生、3年生では、作品の支持体に着目し、浮世絵の紹介では、和紙を教科書の中に差し込んでいます。絵図を頼らずに、感触も含めた感じ取りができるようになっております。美術2年生、3年生下巻では、生活環境に即した表現方法として、事例を交えながら作品を紹介しています。日常生活の表現がどのような場面で生き、活用されるか想像することができ、表現意欲への動機づけになるように工夫されています。表現や発想の可能性を求めた題材が多く、日常生活で使うものや、自然物などを使った作品を紹介しています。

最後に、(2)日本の伝統文化についての取り上げ方です。

開隆堂です。多くのページを、日本の文化や、日本と世界の文化を比較することに使っています。自国の伝統文化の美しさを写真と説明でわかりやすく解説しています。さらに、生徒作品に転化できるように促しています。色彩については、日本特有の色を紹介し、名称とともにわかりやすくまとめられています。

光村図書出版です。日本文化を題材にした多様な表現、作品を紹介しています。資料の多くから、日本の文化との結びつきを創造することができ、読むことで自分の制作活動が、日本の文化の一環であることを意識することができるようになっております。また、季節感という日本人らしい着眼点で、くらしの文化を捉え、日本古来の色や形を楽しむ文化を表現しています。

日本文教出版です。日本の伝統文化は、主に美術の2年、3年・上で取り扱っております。日本美術と世界とのかかわりや伝統工芸を含めた日本の美意識について、参考例

とともに多岐にわたって説明されています。季節感と、日本伝統文化についても、盛り込まれています。1年生では、日本の地域性を考慮したページがあり、地域性と美術をつなげた表現が特徴です。

以上で報告を終わります。

○坂倉教育長 資料作成委員会の報告は終わりました。中山先生、特につけ加えることはないですか。

美術について、御質疑があったらお願いしたいと思います。

御質疑はよろしいでしょうか。

○星山委員 美術の世界は、この写真の切り出し方とか、同じアーティストの方でもどの作品を載せるかというのは、もう感性の問題なので、なかなかそれ以上に踏み込めないと思うのですが、同じ作品であっても見せ方によっては全然印象が違うと思いますし、だから、このレイアウトそのものが美術だといえば美術かなと思うのですが、でも、美術の御専門の先生方の中で、やはり質的にといいますか、今、とても形式的な評価が多いと思うのですが、この3社の中でアーティストの先生から御覧になって、子どもたちの感性に訴えるという視点では、特に何かありましたか。

もう1点目は、3冊分かれているのと、2冊になっているのは、お教えになるときに、特に違いはないものでしょうか。この2点についてお伺いします。

○市場教科別調査部会「美術」部長 最初の質問です。表紙等々、写真の切り出し方ということなのですが、各調査委員のほうも意識はあります。ただ、各社、どこも工夫をしているなという感想です。

2番目です。2冊、3冊なのですが、より丁寧な形は3冊だと思います。ただ、扱いやすさから言うと、多くの教員は2冊のほうがいいかなというような意見を申し添えました。

○坂倉教育長 他に御質疑はございますでしょうか。

○金山委員 生徒作品がたくさん載っているものがありますが、生徒作品が多いということは、どのように評価なさるのかなと思います。というのは、身近な見本としていいのか、それとも生徒のイメージがそこで止まるのかということが、少し気になったのですけれども。

○市場教科別調査部会「美術」部長 発想が止まるということはないと思います。ただ、世界的なアーティストのものとか、またそういう伝統文化のものから、普段の自分の制作

にストレートにもってこられる子たちは、そんなに多くはないのですね。そうすると、身近な生徒作品、ああ、こういう感覚でつくった作品もあるのだというのは、子どもたちにとっては一つの手がかりになっていくと思います。

○和田委員 制作と鑑賞のところ、一つずつお聞きしたいのですけれども、教師の指導の中で、こういうすぐれた作品があるから、これを見てつくりなさいというのは、一番教師としてはだめなやり方で、作文でもそうですけれども、その手順をきちんと教えられるかどうかということにかかってくると思うのです。そういう意味で、今のように生徒の作品を載せたりとか、すぐれた作品を載せながら、指導面で、生徒自身がこれをつくったりとか制作にかかわったりするときに丁寧な説明ができているのは、どの会社なのかというのの一つお聞きしたいのと、それから、鑑賞の面で、2社が和紙を入れていませよ。和紙の感覚というか、和紙ならこうだけれども、では、油絵だったらどうなのかとか、あるいは水彩画だったらどういう感触なのかと、これは和紙だけ入れているわけなのですが、これは入れる意味というのは評価されていますか。感触というか、紙の質感というか、そういうものを入れて鑑賞に生かすという点からすると、どのような評価をされていますか。

○市場教科別調査部会「美術」部長 まず、制作の指示を出す段階での使い方ということですが、各社、今年の特徴なのですが、非常に丁寧に制作技法について触れています。これは、今回の特徴ではないかと思っています。そのため、その部分はおさえてあるのですが、最初に申し上げたとおり、発想をどうやって表現につなげるかというところが一番のポイントだと思っています。そういう意味では、教科書がこうだからという形ではなくて、その図版ですとか説明とか文章から、子どもたちにどうつなげさせるかということに視点を置いていますので、特に各社比較として、ここはという感じでは私は受けておりません。

2番目の質問です。和紙のことですが、これは正直、少しインパクトがありました。これが先々発展するかどうかわかりませんが、素材はこうなのだなど、それを感じるきっかけにはなるかと思っています。あとは、これを使う教師のほうのもっていき方かなと思います。

○坂倉教育長 他に御質疑はございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○坂倉教育長 ありがとうございます。では、資料作成委員会の方々、御退席いただいて

結構でございます。

御意見はございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

特に御意見もございませんので、美術についてはこれで終わりたいと思います。

次に移るのですけれども、ここで会議も長時間になりましたので、10分ほど休憩を取りたいと思いますので、再開は10時35分からとしたいと思います。

事務局の方は、興水委員にも声をかけていただきたいと思います。

〔午前10時25分休憩〕

〔午前10時35分再開〕

○坂倉教育長 休憩前に引き続き、会議を続行いたします。

○坂倉教育長 次は、保健体育でございます。

資料作成委員会から御報告願いたいと思います。

○大越教科別調査部会「保健体育」部長 保健体育部長をさせていただいております、四谷中学校校長、大越でございます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、保健体育について報告をさせていただきます。

現在、八王子市で使用している教科書は、学研教育みらいでございます。前回の学習指導要領改定で、保健体育の授業が週3時間、年間授業数が105単位時間となり、中学校3年間で合計315時間を通して体育分野は267時間で、全体の85%程度。保健分野が48時間、全体の15%程度の履修の時間割合となっています。

その中で、武道、ダンスの必修化、また、体づくり運動が各学年7時間以上、体育理論は各学年3時間以上の時間の配当となりました。

保健体育科の目標につきましては、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるということであり、その上で、保健と体育を関連づけ、心と体を一体化として捉えることを重視し、健康の保持増進、豊かなスポーツライフの実現を図るために、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成、健康の保持増進のための実践力の育成、体力の向上を図って、明るく豊かな生活を営むということが保健体育科の重要な狙いとして調査研究いたしました。

それでは、調査報告書に基づき説明させていただきます。

1、内容についてです。(1)発達段階に即しているということでは、1年生にとっ

てわかりやすいかということも考慮し、調査いたしました。各発行社とも考慮されていると思います。また、1時間単位で生徒に身につけさせる目標や狙い、課題が明確に示されています。

(2) 興味・関心への考慮につきまして、各発行社ともイラスト、写真で興味・関心を引き出しています。東京書籍は、各単元の初めに「やってみよう」というところで、興味・関心を引き出し、「考えてみよう」では、生徒に記入させることで考えさせる工夫に特徴があります。大日本図書でも、「考えよう」、「学習を生かして」のところに生徒が記入する部分があり、考えさせる工夫があり、「トピックス」が生徒の興味・関心を引き出す内容となっています。大修館書店では、各単元の初めに「クエスチョン」があり、狙いが明確になっています。コラム記事により実生活と結びつける工夫もされています。生殖機能の単元では、部員から、イラストが少しリアルであるとの意見も出されました。学研教育みらいでは、「ウォームアップ」として学習に入りやすい工夫がされています。「活用しよう」では、協働、言語という言葉があり、アクティブ・ラーニングなど、教員が取り入れやすい工夫もされています。

続きまして、2、構成及び分量の観点です。配列について、東京書籍は、学年ごとに前半が体育編、後半が保健編の配列であり、大日本図書と大修館書店は、前半が体育編、後半が保健編の配列となっております。学研教育みらいは、保健編が前半にあり、体育編が後半になっていて、それぞれの違いとなっています。各発行社とも、発達段階に即して、見開きで1時間の授業で学習する内容に配慮した分量となっております。また、基本事項のおさえと補充教材、発展教材の工夫も報告書に記載されたようになされていると、委員からも意見が出ていました。

続いて、3、表記及び表現につきましては、各発行社とも各章の終わりにまとめの問題があり、生徒にとって理解しやすいものになっています。写真やイラストについても、各発行社とも工夫していますが、部員から、学研教育みらいの写真やイラストがバランスよく配置されているという意見も出されました。

4、使用上の便宜につきましては、東京書籍は教科書の使い方、学習方法の例示が各2ページずつ計4ページあり、大日本図書と学研教育みらいは、それぞれ1ページ、大修館書店が3ページとなっています。

課題発見、解決に向けた学習が効果的に進められる配慮については、各発行社とも工夫されていると思います。

教科書の大きさに違いがあり、東京書籍と大日本図書がB5判サイズの幅だけ2センチほど広く、大修館書店と学研教育みらいのB5判サイズが、一般的に生徒が使用するノートと同じサイズで扱いやすいのではという意見も出されました。

地域性の配慮ということでは、直接八王子市を扱ってはいないのですが、八王子市としても環境保全については関心事の一つであると思います。保健編で扱う、2章、健康と環境の掲載ページ数は、東京書籍12ページ、大日本図書は14ページ、大修館書店は16ページ、学研教育みらいは19ページとなっています。

最後に5、重点項目についてですが、前回の調査研究のときと同様、体育理論と感染症にしました。(1)の体育理論について、関心事である2020年東京開催のオリンピック・パラリンピックの記事も掲載されており、生徒の興味・関心を引き出し、各項目のスポーツの多様性、スポーツの効果と安全、文化としてのスポーツという内容は同じであり、並行して体育実技を行うに当たっても、保健体育科の目標である、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てることに関しての知識を得るためにも、各発行社の工夫が見られます。

(2)の感染症の項目でも、各発行社とも感染症の予防について、図やイラストなどを用いてわかりやすく説明されています。

以上で説明を終わります。

○坂倉教育長 ありがとうございました。

ただいま資料作成委員会の報告は終わりました。保健体育について、御質疑があったらお願いします。

今、御説明の中で、判形についてはB5判のほうが、子どもたちが扱うノートと同じ大きさだから使いやすいという経過があったというお話があったのだけれど、私は、このA/B判ないしはA/B変形のほうが大きくて見やすいかなという意識をすごくもったのですけれど、その辺、そのノートと同じ使いよさというのは、どのようなところを指しているのでしょうか。

○大越教科別調査部会「保健体育」部長 部員から、ノートと同じ大きさのほうが、机に置いて教科書を開いてノートを書くということがやりやすいのではないかという意見が一部出されています。この見開きで考えると、大きい会社ですと2.5掛ける2倍で、5センチ横が広がりますし、机も余り大きいものではないので、さほど差異はないと思っていますが、そのほうが使いやすいのではないかという意見が出されていました。

○坂倉教育長 他に御質疑はございませんでしょうか。

○和田委員 まず、構成、分量のところ、2社が保健編・体育編という順、それから体育編・保健編という並びですよね。この違いについて、どうお考えになっているかお聞きしたいのと、先ほど、年間の授業時数、保健であれば16時間ということになりますよね。3年間で48時間ということになるのですけれど、この教科書を使って体育の分野を扱うということは、時間的に確保されているのでしょうか。

○大越教科別調査部会「保健体育」部長 構成の部分で、いろいろな会社が3年間で身につけるといふか、保健で教える部分のところは工夫されていると思います。

良し悪しは特にないと思います。学年ごとに進行していく場合もありますし、体育分野のほうから指導をして保健に入っても構わないですし、中身が網羅してあれば使う側にとっては、さほど差異はないように感じております。

それともう1点、保健分野、3学年を通しまして48時間程度です。各学年に直すと16時間程度の中で、体育理論のほうも取り扱っております。体育実技のほうは、教科書ではなくて副読本という扱いの中で、もう少しこれよりも厚いものがあるいろいろな会社から出されていまして、学校ごとに副教材という扱いで使っておりますが、メインとしては体育実技の85%のほうで、副読本を中心に体育の授業、実技の授業を展開していきます。心と体の一体化ということで、心、健康も含めた体育、体力向上も健康の維持管理も含めて、この16時間の中で配当して、並行しながら、心と体の健康という意味で、保健体育科は指導をしております。以上でございます。

○坂倉教育長 他に御質疑はございませんでしょうか。

○興水委員 これからの社会に、本当に保健体育は大事だろうというふうに思いながらお聞きしていました。各会社、それぞれ頑張っていらっしゃるのはよくわかったのですけれども、一つ、3年間の見通しというところで、2社は1年生ではここ、2年生ではここ、3年生ではここというふうに示していらっしゃるといふのを拝見いたしました。これは、例えば学校によって、地域の実態やニーズによって、別に3年生でなくても保健のこの部分は先にやりたいのだというようなことがあるのではないかなというふう考えたのですが、そこら辺、見通しという意味ではいいでしょうけれども、扱いとしてはどうなのかが1点。

とりあえず、その1点を先にお願いたします。

○大越教科別調査部会「保健体育」部長 今、興水委員のおっしゃったとおり、学校の事情

もあつたり地域性だとか生徒の実態だとかを考えますと、各学年に割り振られるよりも、学校の行事も含めて、年間指導計画の中で、どこで教えたいというのが、その学校ごとに決めていったほうがよろしいかなと、私の意見ですが思っております。

以上です。

○興水委員　では、もう1点です。

それをお聞きした上で、もう一つ確認をしたいのですが、今、和田委員がお話になったように、実際の場合、やはり教科書を使って子どもたちに保健体育の学習をさせるときには、どちらかというとな保健分野のほうが、座学といいますか、授業で使うという意味では多いのではないかなと思うのですが、そうなったときは、構成の問題ですが、保健のほうが先にあったほうがいいのではないかと思いつながら見たのですが、先ほど、余り関係ないですというふうなニュアンスでお話がありましたが、実際、いかがでしょうか。

○大越教科別調査部会「保健体育」部長　座学の部分で、この教科書を使いながらやったり、調べ学習等も含めて膨らませて、発展的な授業も含めてやります。

調査部会の中では出されてはいなかったのですが、私の経験から考えると、保健が前でやっていたことが多かったので、私の個人的な意見になりますけれども、そのほうがいいのではないかと思います。

○坂倉教育長　発達段階にあわせてというか、学校によってかえるという話があったのですが、中には市内で転校するような子どももいることを考えると、採択とは別なのですが、どこが選ばれたにしても最低限、年をずらすのかずらさないのか、その辺は少し教育委員会で考える必要があるかなとは、少し思っています。

それによっては、学べなくなってしまう場合も出ますので、それはまた考えたいと思っています。

他に御質疑はございますでしょうか。

○星山委員　大学に上がってくる学生に授業を行っていることもあり、伺ってみたいのですが、私は教育学部400人、全国から教員志望の学生さんを教える導入のところで、子どもの命がどのように生まれてくるかという話をするのですが、大学生でも、全員とは申しませんが、知らないのですね。

それで、私が一番見せている画像がありまして、ここでも写真が随分使われているのですが、興味本位ではなくて、中学生にどのようにして大切な命が生まれてくるかとい

うことを説明するのは、非常に難しいのではないかなと思うのですが、例えば、自分の命そのものも、すごい確率で奇跡のようにして授かってくるのだというような話をする
と、1年の学生が、みんな、「おお」と言うのです。ということは、余りそのところ
をきっちり教えられていないのではないかなと、私としては少しこわいなと思っていま
す。それは八王子の問題ではなく、全国から学生が集まってくるものですから。

受精のことも全部教えるのですが、そのたびに、学生さんたちがものすごく感動する
わけです。しかも、10年教えているのですが、余り変わらない傾向かなと思うのです。
中学生というのは、どういうふうにしてその授業のところで反応するものなのかというこ
と。また、こういうふうにして胎児が命を授かって、そして大事な命が生まれてくるの
だよということが、結果的にあなたを大事にしなさいというメッセージにもなるかなと
思うのですが、日本の教育の中では、そこを教えるのが難しいのではないかなと思って、
大事なところなのだろうなという思いがあるものですから、なるべくその大切なところ
が、ぱっと中学生にも飛び込んでわかるような教科書がいいなという視点で、私は選ば
うと思っているのですが、その辺のところ、もし御議論があったり、あと現場の経験
で中学生というのはこういうものかというのであれば、教えていただけるとありがた
いです。

○大越教科別調査部会「保健体育」部長　　今のお話を聞いてびっくりしているのですが、今、
小学校、中学校の目標の中に、基礎を学んでというものが入りながら、小中学校、高等
学校、関連づけてというのが、前回の学習指導要領の観点ですので、どうやって教える
かというのは別にしまして、生命誕生の部分については、中学校1年生のところ、自
分たちの二次性徴の中でいろいろな機能が発達して、赤ちゃんが産めるような体つきに
なっていったりということは教えております。

私は、随分前に授業から離れてしまいましたが、この部分で言うと、私の中では、例
えばNHKの「生命誕生」だとか、ビデオ映像も使いながら、現実はどういうものなの
だ、仕組みはこういうものなのだということを教科書を使用して教えてきたつもりです。
ですので、大学1年が、「ええ」とか「ああ」とか言うのは、少し信じがたいです。ど
このところでも、多分ここが一番大事な、中学生にとって、そこで二次性徴がきて、こ
れからどういう変化があつて、体力が向上していったり、心のバランスをとったりとい
うのは大事な教科の一つですので、網羅しているとは思っています。そうであつてほし
いなということは思います。

命の関係ということは、先生のおっしゃるとおりに、自分の命を大事にすることによって他者のことも考えられたりとかという部分に、必ず結びついてきますので、以前の学校のことをお話ししますと、命の授業の中で、助産婦さんをお呼びして、模型でもいいから、2か月の胎児はこのくらいなのだとか、そういうところを子どもたちにやってもらうことによって、ああ、赤ちゃんってこんなに大きかったんだ、重かった、小さかったんだということを感じる授業であったりとか、他教科との関連の中で、自分の生まれたときの母子手帳をお母さんに見せてもらっておいでというような授業もできますし、いろいろな部分で発展させながら、やはり一番大切なのは命ですので、その安全という形を保健体育の中でも、なるべく扱っていければということは思っております。

以上です。

○坂倉教育長 他に御質疑はございますでしょうか。

○和田委員 今の星山委員の御質問は、それでいいのですか。要するに、日本の保健の中で性教育を扱うというもともとが、感染症、H I Vの関係からきちんと指導をしていきたいと思いますという、そういう大きな流れがあったので。

例えば、母親、父親の遺伝子をきちんと受け継いで、その組み合わせによって自分の体ができているという、そういう思春期的なものもあるけれども、科学的に非常に深い遺伝の問題も含めて、そういうつながりがあって自分が今あるということを自覚するというのが、なかなかこういう性教育の中では取り扱われていないのです。

これを、理科の分野のほうでは生殖のところまで扱っているのだけれども、生徒たちや小学生は、生殖のほうではメンデルの法則といった遺伝の組み合わせのようなものを学び、保健の分野ではこういう出産にかかわるような部分を扱っていて、それがうまく統合されていないというような意識を非常にもつのです。

だから、自分の生命というのは、そういう永遠の生命の中の一つの奇跡のような組み合わせになってできているという、そういうところまで至っていないのです。

さらに、私はこの後に必ず見ているのは、では、この扱いを次の章で何に扱っているのかというと、異性の尊重というか、性情報の扱いにつながっているのです。理科ではないので、そういう扱いになってきてもいいのですけれども、その次のところで、保健の場合にはそれをどのように丁寧に扱っているのかというのを見ていかないと、この部分だけを見てしまうと、保健体育の先生が、次に来るこの扱いをどう生かしていくのかというところを、きちんと指導されているのかなというのが、少し心配をしている

ところです。

どの会社を見ても、見開きの2ページで終わっているのですが、それほどの違いはないなというふうには見ているのですが、なぜ保健体育の時間に生殖機能の成熟というような扱いをしているのかというのは、先生方がいろいろなものと結びつけて考えて指導をしていかないと、単発的な話になってしまい、それこそ興味本位の授業になってしまうような気がしています。少し教科書採択とは違うのですが、扱いはそういう扱いになってきてしまっているのではないかなと、心配しています。

○坂倉教育長 他に御質疑はございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○坂倉教育長 次に、御意見はございますでしょうか。

私も、星山委員とは違う観点かもしれないけれども、今言ったような全体的に時間数がどうかというお話があった中で、子どもたちの疑問などに答えているような教科書がありましたよね。答えているというか、考えさせる。その辺の使い方次第ですが、若い先生自体が完全に教え込むことができないときに、そういう意味では、いい作り方をしているかなと思ったので、そんな観点で選んでいきたいと思っています。

○大越教科別調査部会「保健体育」部長 すみません。先ほど少し不足の点があったので説明させていただきます。

先ほどの学年のところでの指導の内容ですが、学習指導要領には、第1学年では心身の機能の発達と心の健康を指導する、2年生では健康と環境と障害の防止、第3学年では健康な生活と疾病の予防ということで指導することを示されています。申し訳ございませんでした。訂正いたします。

以上です。

○坂倉教育長 大きく、どの教科書を選んだとしても、教科書はそれで成り立っているから、そこを崩すことはないということですよね。



○坂倉教育長 次に、技術科の技術に移ります。資料作成委員会から御報告願います。

○金野教科別調査部会「技術・家庭」部長 技術・家庭科部会の部長をさせていただいております、長房中学校校長の金野でございます。本日は、よろしく願いいたします。

○植田教科別調査部会「技術・家庭」副部長 同じく副部長をさせていただいております檜原中学校副校長、植田でございます。よろしく願いいたします。

○金野教科別調査部会「技術・家庭」部長　それでは、始めさせていただきます。

今回の改定でも技術・家庭科の目標は、前回と同じでございます。内容も、大きく変わってはおりません。

内容構成におきましても、前回同様、各分野ともAからDの4つの内容を全て3年間で履修させることになっております。また、両分野ともに、小学校での学習を踏まえ、中学校3年間の学習の見通しを立てさせるガイダンス的な内容を設定し、第1学年の最初に履修させることとされました。技術・家庭科の採択では、前回同様、東京書籍、教育図書、開隆堂の3社です。現在八王子市で使用している教科書は、技術分野、家庭分野ともに東京書籍です。

それでは最初に、技術分野について御報告いたします。

観点1、内容について。東京書籍です。各領域について幅広く、量的にも紙面が広い分、多くの情報が記載されています。4つの内容それぞれで生活に必要な基本的な事項をしっかりと押さえた上で、具体的な実習が進められるようになっていきます。また、技術の匠として、各分野の専門家の紹介は、興味・関心を引くものと思われま

す。教育図書です。基本的な内容で構成されており、生物育成の内容は実習を中心とした内容が詳しく記載されています。また、実践的、体験的な内容が非常に多く記載されています。

開隆堂です。内容の量は多くないのですが、細かなところまで記載されている部分があります。奇数ページの右上に道具の記載があります。4つの内容それぞれで、生活に必要な基本的な事項をしっかりと押さえた上で、具体的な実習が進められるようになっております。

観点2、構成及び分量について。東京書籍です。内容は、節ごとに、何々しようとか、何々を知ろうといったような、問題解決を意図した構成になっています。また、補充教材、発展教材としての実習例も、時間的に無理のないものが示されています。4つの内容の構成は、基本的な内容をしっかりと押さえて扱われています。

教育図書です。内容の構成に、考えよう、調べようという設定があります。補充教材、発展教材の実習例は多く記載されていますが、時間的に扱うには難しいのではないかとと思われる作品も示されています。4つの内容の構成及び分量において、生物育成では実践的、体験的な内容が多く記載されています。

開隆堂です。段階を踏んで学習できるように配慮されています。情報モラル、セキュ

リティの内容が非常に詳しく記載されています。

観点3、表記及び表現について。どの出版社も、生徒にとって読みやすく、見やすい構成になっております。

観点4、使用上の便宜について。東京書籍です。ガイダンス的な内容で、写真を中心に、見開きで全体の構成が見渡せるようになっております。また、節ごとに内容の目標が設定されており、チェック欄によって問題解決的な学習を生徒が自分で進め、確認できるよう配慮されています。

教育図書です。ガイダンス的な内容は単調で、解説にとどまっており、全体の構成を見渡しにくい傾向があります。節の内容の中の文末に目標が記載されており、全体を読まないで理解しにくくなっています。

開隆堂です。ガイダンス的な内容で、写真とイラストを多用して、全体の構成が見渡せるようになっています。また、節ごとに学習の目標が記載されており、振り返り欄の設定があり、問題解決的な学習を生徒が自分で確認できる配慮がなされています。

観点5、重要調査項目について。今回の重要調査項目としては、技術分野の4つの学習内容と、小学校での学習とのかかわりを知り、3年間の見通しをもたせることの大切さを考えて、一つはガイダンスの内容について調査し、また、実習を行う際、事故やけがを未然に防ぐ必要があることから、技術科の授業の中で最も重要な安全への配慮を、2つ目の調査項目といたしました。

(1) ガイダンスについて。東京書籍です。技術科の目標が、初めにわかりやすく記載されています。教科書の構成や進め方を、見開きで例を挙げて説明しています。教科書に使用されているマークの意味を、わかりやすく説明しています。教科書全体の内容を写真とイラストを使い、コンパクトにまとめて説明されており、学習が一目でわかるようにまとめられています。また、学習の進め方をPDCAサイクルに基づいて説明されています。

教育図書です。前半の内容には、歴史的な内容と技術の進歩について記載されており、これからどのような内容を学習するのかを理解するには、少し難しく感じました。後半の目次のページで、教科書に使用されているマークの意味を、わかりやすく説明しています。後半の4つの学習内容については、ガイダンスとして、全体の学習内容のイメージがわきにくい傾向がありました。

開隆堂です。目次のページに、教科書に使用されているマークの意味をわかりやすく

説明しています。4つの学習内容のつながりを、写真を使ってわかりやすく説明しています。学習の進め方を、PDCAサイクルに基づいた形で説明し、目標をもたせる内容になっています。

(2) 安全への配慮について。東京書籍です。ガイダンスの中で4ページにわたって説明があり、最初に、「安全に実習をするための3つの視点」として、実習前、実習中、作業後として細かく記載されています。次に、「安全な作業を心がけよう」として、イラストで実際の作業の中での危ない例を、詳しく示しています。また随所にわかりやすい安全マークで丁寧に説明されています。

教育図書です。ガイダンスの中に、安全に関しての記述、説明がなされていないと思います。本文中に、電気器具の事故防止についての内容が記載されています。また、随所に注意マークで丁寧に説明されています。

開隆堂です。ガイダンスの中で2ページにわたって説明があり、最初に、「安全に作業を行うための心得」、次に、「作業時の注意点」として、イラストで実際の作業の中での危ない例を詳しく示しています。また、随所にわかりやすい安全マークで、丁寧に説明されておりました。

説明は以上でございます。

○坂倉教育長 ありがとうございます。資料作成委員会からの報告は終わりました。技術について、御質疑があればお願いいたします。

よろしいですか。

判型について、いろいろ議論はありましたか。A B判とB判ですが、大きさについて、何か使いやすいとか、御議論はありましたか。

○金野教科別調査部会「技術・家庭」部長 サイズですね。特に部員の中からは出ませんでした。

○和田委員 重点調査項目のガイダンスという言葉が、先ほどから使われているのですが、このガイダンスというのは、どういう意味ですか。それからこれを調査する上での解釈の観点は、どんなものを考えていらっしゃったのですか。

○金野教科別調査部会「技術・家庭」部長 ガイダンスというのは、一般的には個人に対して教えるという意味かと思うのですが、教科書の中でのガイダンスというのは、一つには、この先3年間、目標をもって生徒に授業をしていくという意味の、大まかな説明、大事な部分だと思います。

技術科は、週1時間しかございませんので、3年間で105時間しかないのです。A B C Dがございますので、このガイダンスがすごく大事なのではないかなというふうに考えております。そんな形で調査いたしました。

よろしいでしょうか。

○坂倉教育長 他に御質疑はございますでしょうか。

それでは、御意見がありましたらお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○坂倉教育長 それでは、他に御質疑、御意見等はございませんようですので、次の種目に移ります。

○坂倉教育長 技術家庭の家庭部門につきまして、資料作成委員会から御報告願います。

○植田教科別調査部会「技術・家庭」副部長 檜原中学校副校長、植田でございます。よろしくをお願いいたします。私のほうからは、家庭分野の調査報告をさせていただきたいと思っております。

先ほど、金野部長から御報告申し上げましたとおり、技術・家庭科は東京書籍、教育図書、開隆堂の3つの発行者でございます。現在は、東京書籍でございます。

調査の観点につきましては、技術分野と共通の4観点と、重要項目を合わせた5観点でございます。よろしくをお願いいたします。

まず、全体的な総括でございます。各教科書の総ページ数ですが、東京書籍が231ページ、教育図書266ページ、開隆堂236ページとなっております。各社とも、中学生としての自己の生活の自立を図る観点から、履修すべき4項目、学習指導要領に示されております「家族・家庭と子どもの成長」「食生活と自立」「衣生活・住生活と自立」「身近な消費生活と環境」を全て網羅しております。発達段階に即した対応となっており、基礎に重点を置いた構成となっております。

ページの割合でございますが、各社とも食生活と自立に関するページが多く割かれており、平均しますと33.7%使われております。次いで多い部分に関しましては、衣生活と住生活の自立が、平均して30%割り当てられているという状況になっております。

それでは、各発行者の具体的な内容を御報告いたします。

観点1、内容についてでございます。東京書籍です。多くの実習例や写真を活用し、各教科書のページの下にはQ&Aが設置してあり、生徒が興味を示す内容であります。各章の要所ごとに「プロに聞く」という内容が設定されており、例えばスポーツ選手の理想の食事であるとか、日常の洗濯のポイントなど、専門家の意見が載せられており、説得力のある内容となっております。

教育図書です。各章の初めに「自立度チェック」やクイズが設定されており、生徒の日常生活に照らし合わせて考えさせるような、興味・関心が引き出しやすい内容となっております。調理の基礎や基本、作成の実習の基礎がまとめられており、生徒個々の学力に応じた内容となっております。資料集的な内容も含まれており、例えば郷土料理の紹介では、その郷土料理の名前だけではなく、内容も解説しております。浴衣の着方の方法では、8段階と細かい手順を示し、また、洗濯の方法ではセーターの標示タグを4種類掲示するなど、資料集として使えるようになっております。

続いて、開隆堂の内容です。ページ右上に細かい写真と子どもの表情や食材名、各国の環境マーク等が配備され、興味を引く内容となっております。各章の要所に、「参考」「考えよう」という内容が設定されており、専門家や著名人の話が掲載されております。例えば「参考」の欄では、「あなたは食べ物でできている」「通信販売購入のポイント」、「考えてみよう」では、「着用した体操服を洗濯するときにはどのような作業があるか」など、生活と関連づけた関心を引く内容となっております。

続きまして、調査観点2、構成及び分量についてでございます。

東京書籍です。基礎技能、例えば野菜の洗い方、切り方、アイロンのかけ方、洋服のはころびの直し方等が領域ごとに配列され、包丁の使い方や針の運び方では、右ききや左ききの表示がなされている構成となっております。調理実習では、実習時間に応じた肉じゃが、ごまあえなどの組み合わせの料理例で構成され、実習時間に応じて活用できる分量であります。

教育図書です。実習から発展、選択という項目が表記され、発達段階に応じた配列があります。例えば、うどんの調理実習の後に、イタリアのパスタ、ベトナムのフォーや春雨等に発展しているような表記でございます。また、選択項目として、大根をおいしく食べるための方法というのも考えさせる構成となっております。被服につきましては、雑巾、アームカバーなど、比較的短時間で扱える構成と分量となっております。調理や裁縫道具の一覧が構成されており、家庭ではなかなか全てをそろえることができない現

状の中、実態に応じた分量として構成されております。

開隆堂です。一連の学習の流れが、目標・導入・基礎基本・実践課題・学習を補う・参考という形で、見通しをもって学習に取り組める紙面構成となっております。また、日常生活に配慮し、キュウリ1本を使って、さまざまな切り方、輪切り、乱切り、いちよう切りなどを示しております。日本食、洋食のマナーを学習できる構成と分量にもなっております。

調査項目観点3、表記及び表現について。

東京書籍。巻頭に、「この教科書で学ぶ皆さんへ」という導入の表記があり、教科書を使用する上での構成やマークの意味が理解できる表現となっております。表現や説明及び写真も明確であり、野菜などは実物大の写真を掲載し、教科書の紙の厚さが薄く、裏に透けないような質感でございます。また、調理実習の例は、6段階の横流れで統一されており、全て写真で見やすく掲載されております。

教育図書。口絵の一番最後、最終ページに、暮らしの中のマークとして、一覧として発展的な学習の機会となる表記であります。調理時間が大きく表示され、計画的に取り組める表現であり、特にキャラクターを用い、吹き出しで課題の発展や課題解決のヒントとなる一言が書かれている表記がございます。例えば、一日に何をどれだけ食べればよいかを学習するという過程では、「あなたは毎日全ての食品群から食品をとろう」という生徒の考えを促す表記がございます。

開隆堂です。学習内容ごとに、学習の目標が、何々を理解する、何々に気づくと明確に表現されている表現です。例えば、デザートをつくる、物質的に豊かな社会、ユニバーサルファッション、リファッションなど、生徒の興味・関心を高める表記の記載もがございます。また、実物の食品のおおよその大きさが一目でわかるように表現され、魚の新鮮さも判断できるような表記となっております。

続きまして、観点4、使用上の便宜についてでございます。

東京書籍です。各領域で学ぶことが最初に記載されており、小学校での学習内容を振り返るようになっております。章の最後に学習のまとめとして要点を掲載しており、課題解決に向け、取り組めるようになっております。無料のデジタルコンテンツの配信で、効果的な学習をするようになっております。大きめの装丁で余白があり、書き込みができるようになっております。気候、風土、各地域の例も豊富で配慮があり、郷土料理、民族衣装、各地の住居の説明があります。

教育図書です。各領域の終わりに、学習の振り返りが問題集形式で構成されており、自分の言葉で記入し、知識の定着を確認するようになっております。キーワードチェックポイントが赤で配置されており、知識の定着に配慮されております。日本の住まい、世界の住まいなど、例も豊富です。発展的な学習として配慮がなされております。「考えてみよう」「調べてみよう」という項目を立て、家族でお昼にラーメンをつくって食べるなら、どのような具を入れたらよいかなど、実践力が身につく内容が掲載されております。

開隆堂です。各章ごとに「ふり返り」の項目があり、章の学習内容をABCで自己評価するようになっております。領域ごとに、同じく「学習のまとめ」があり、領域全体の学習内容を、「はい」「いいえ」で自己評価でき、具体的に課題を自分で書き込めるような配慮がございます。実習例、特に調理実習の手順を写真等で示し、つけ合わせや配膳の仕方等も掲載しております。

調査の観点5、ガイダンスについてでございます。

東京書籍です。自立を視点を構成されており、自分の生活、自分と家族を考える手だてとなっております。小学校の学習内容を振り返りながら、生活全般を見詰め直すきっかけとなる内容でございます。

教育図書です。家庭分野の学習目標や学習の進め方について、わかりやすく説明されております。小学校の学習内容の振り返りを記入できる欄があり、単元の目標を意識しながら取り組むことができる内容でございます。

開隆堂です。小学校で学習した内容を振り返り、これから学習する内容について写真で説明しております。生徒が直面する生活の課題が巻末にまとめられております。例えば、一日の家事は何をしたらいいか、3食の献立、襟の汚れを落とす方法などがございます。

最後の観点5、安全についてでございます。

東京書籍です。巻頭に、防災をテーマとした資料ページがございます。災害、住まいの安全、火災・災害対策の備えについて意識をもたせ、考えさせる内容と構成になっております。実習例としましては、ウォールポケットや防災リュックを掲載しており、もしも地震が起こったときの場合を想定させて考えさせる内容になっております。防災・安全・衛生・食中毒についてのマークも記載されております。

教育図書です。住まいの中で起こる事故の例として、また調理実習の安全として、領

域ごとにポイントを絞って表示されております。住まいの防犯、自然災害、火災、地震への対策、伝言ダイヤルについても触れております。

開隆堂です。防災の意識で、中学生も地域とともに活動する内容を記載し、災害にあったときの食事についても考える内容となっております。実習例としては、防災リュック、鍋つかみの制作を掲載しております。

以上でございます。

○坂倉教育長 ありがとうございます。

ただいま、資料作成委員会の報告が終わりました。「家庭」につきまして、御質疑があったらお願いいたします。

○興水委員 技術のほうもそうだったのですが、東京書籍は、無料のデジタルコンテンツの使用ができるというふうにあります。八王子の中学校の実態として、これはどれくらい活用されているのか御存じでしょうか。

○植田教科別調査部会「技術・家庭」副部長 実態といたしまして、生徒のスマートフォンや携帯の所有率はかなり高いと思います。また、デジタルコンテンツなのですが、例えば家庭科分野で申し上げましたら、魚のさばき方というのも動画として見る事ができますので、かなり有効ではないかというふうに調査委員会では判断いたしました。

以上でございます。

○坂倉教育長 他に御質疑はございませんでしょうか。

○金山委員 今、お話の出たデジタルコンテンツというのは、子どもたちが自分で見るというものですか。それとも授業で使うというものでしょうか。

○植田教科別調査部会「技術・家庭」副部長 ホームページのアドレスがございまして、授業で教員のほうが提示しながら活用もできますし、子どもたちが自宅で見ることが可能です。両方使えます。

○坂倉教育長 他にございますでしょうか。

○和田委員 「家庭」という分野は本当に扱う範囲が広くて、先ほど「技術」があつて、「技術」はみんなテクノロジーという教科名で統一されているのだけれど、「家庭」のほうは一体何と言うのだろうと考えています。一家にこのワンセットがあつたら、いろいろなことができいいのだなというのが本当に実感としてわかります。

それで、少し「家庭」のほうでお聞きしたいのですが、ここで扱っている内容は、家庭とか衣食住に関するものがありますよね。今、学校教育の中で、生徒の家庭環境と

いうのは非常に大きく変わっている。例えば、家族が全員そろっていない、母子家庭であったりとか、あるいは核家族であったりとか、そういう家族もあると思えば、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に生活しているという、そういう家庭、家族もあるわけですよね。そういったものとか、あるいは家庭の格差、要するに経済的な格差を含めて、さまざまな生活でも差が出てきているという状況がありますよね。子どもの貧困の問題もそうなのですが。

ここで扱われている、そういう家庭に関するものへの配慮、つまり、こうでなければいけないというモデルとなるような写真がいくつか見受けられるわけですが、そういったものに対しての、さまざまな家庭に対する配慮はどうなっているのか。そういうこともきちんと配慮されている教科書なのかということ。

それから、衣食住に関するいろいろなものを提示しているのだけれども、例えば中学生のファッションまで出ていますよね。そういう内容を扱ったときに、本当にさまざまな家庭がある中で、こういうものがファッションの一つの基準というような形で紹介されているものもあるのですが、そういったものへの配慮というのは、どうなのだろうかということがあるわけです。

それから、これは補足的にお聞きしたいのですが、一年間を通した年中行事があつて、昔は季節折々のさまざまな行事を取り上げていたのですが、教科書によってはバレンタインデーやホワイトデーを一つの行事として取り上げているようなところもあるのです。年間の家庭の行事というのは、もうそういうところまで広がっているのかということ。学校で、そういうところまで一つの行事として取り上げて、認めて、では、それを扱って人間関係をよくしましょうとか、そんなところまで取り扱われているのかなというところで、少し先読みしたようなものを感じているのです。

最後のものはいいとしても、前の2つ、配慮という点からして、どうなのでしょう。

○植田教科別調査部会「技術・家庭」副部長 和田委員のおっしゃるとおり、かなり八王子の生徒の家庭環境などの状況は複雑であると思っております。調査部会で最初に話し合ったところは、この教科書を一冊持っておけば、ひとり暮らしができるようなものが一番いいのではないかとということに到達いたしました。

例えば、先ほど御説明いたしましたとおり、男の子がワイシャツの襟が汚れているときに、どうやって洗濯したらいいのかなど、そういうところも含め、どの教科書がいいのかと考えた結果、どれでも対応できるという結論が出ております。

到達点はということに関しては、やはり生徒の自立というところになっております。
学習指導要領の技術・家庭科の分野にも示されておりますので、そのところが一番大事ではないかと判断をいたしました。

○坂倉教育長 他に御質疑はございませんでしょうか。

今は中卒で働く人は少なくなりましたが、確かに、技術と家庭の教科書をずっと持っていれば、本当に家庭のほうの料理レシピなんか、料理本みたいですごいですよね。

学校だけで教えるという意味ではなくて、そういう見方もあるのかなと思ったところ
です。

他によろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○坂倉教育長 それでは、御意見があれば、お願いいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

他に御意見もないようですので、次の種目に移ります。

○坂倉教育長 続いては英語でございますので、恐縮ですが、興水委員には御退席願いたい
と思います。

それでは、資料作成委員会から御報告願います。

○堀内教科別調査部会「外国語（英語）」部長 それでは、外国語部長をさせていただいて
おります、七国中学校校長の堀内でございます。よろしくお願いいたします。

○竹内教科別調査部会「外国語（英語）」副部長 同じく副部長をさせていただいておりま
す、第五中学校副校長の竹内でございます。よろしくお願いいたします。

○堀内教科別調査部会「外国語（英語）」部長 それでは、外国語について御報告させてい
ただきます。

現在、八王子市で使用している教科書は、学校図書の「TOTAL ENGLISH」でございま
す。これから、教科書会社ごとに御報告させていただきます。

初めに、東京書籍、「NEW HORIZON」を紹介させていただきます。レイアウトはよく、
優しい色使いで見やすい編集になっております。語句の補習、ツールボックスや、文化
等の背景についての説明、コラムが各セクションにあり、生徒の興味を引き出す効果が
期待できます。また、基本文が独立して強調されているので、ポイントを把握しやすい
面があります。会話の指導を行うページの「Daily Scene」では、発言者を左右のペー

ジに分け、生徒が対話をしやすいように工夫されています。本書のユニットごとの構成は、おおむねStarting Out、Dialog、Read & Think、Activityの順になっています。

Starting Outでは、そのユニットの内容に関連する題材を日常生活に近づけた形で取り上げ、生徒の興味・関心を高めようとしています。Dialogでは、文法事項や、それを活用した言語活動を重点的に指導しやすくしてあります。その後に長文が展開され、読解力を養うことができるようになっていきます。単元全体では、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの4技能全てについて、同じ程度に指導を行うことができるようになっていきますが、毎時間の授業でバランスのとれた観点で指導を行うには、各ユニットの最後にあるアクティビティを途中で指導する等の工夫が必要と考えられます。特に長文が出てくる各科の後半の内容は高度になっていて、英語に苦手意識をもつ生徒にとっては、かなり難しい学習となることが考えられます。

また、まとめと練習で文法を説明するために、重要語句にマーカーがあらかじめ引かれています。単色であるため、それぞれの品詞の役割や語順について説明するときに、工夫が必要と感じます。

一般的には、第2学年で学ばせる言語材料が多くなってきています。その中で、本教科書と学校図書のTOTAL ENGLISHは、受動態についての学習を第3学年に移し、第2学年の負担を減らしています。第3学年では、受動態と現在完了から始まっています。これらの2つの習得は、過去分詞が共通していて、3年生の4月からの一連の指導に、より効果的なものとなると考えられます。

次に、開隆堂の「Sunshine」についてです。各Programにおいて、各単元とも見開きで、左側に基本的なDialogの学習から始まり、聞く・話す、活用といった言語活動で文法事項を定着させてから、本文指導でさらに学習内容を深めさせていくという流れになっており、バランスよく、指導しやすい構成になっております。

巻末に、できるようになったことのリストがついており、年に4回チェックすることによって、生徒が自己の学習の理解度を把握するのに有効だと考えます。また、1年生の教科書に、書き込み式のペンマンシップ、すなわちアルファベット等の書き方があり、丁寧な文字指導を展開しています。さらに、付録として、切り取り式の動詞アクションカードがついており、活用の幅をもたせています。有効に活用するためのさまざまな方法が考えられると思います。

「POWER-UP」では、スピーキングやリスニング力の向上が集中的に図られており、有

効な方法だと思えます。また、「My Project」は、学習した言語材料を使い、総合的な英語力の向上を図ることができるようになっており、特にスピーチやライティングといった言語活動を行うのに扱いやすい内容となっています。

各単元内の分量や構成はおおむね均等で、生徒の理解を深めるためにも、取り組みやすい内容になっていると思えます。

次に、学校図書の「TOTAL ENGLISH」についてです。第1学年の導入において、一般動詞から学習を始める構成となっています。小学校での英語活動をそのまま生かし、多様な自己表現を指導できます。これは、調査対象の6社の中で唯一です。つまりきやすい、通称三単現のsの単元は、be動詞の後に配置され、生徒が中学校の英語になじんだころに取り扱われる配慮がなされています。自然な話し言葉を中心に題材が構成されており、定着のための言語活動を行いやすいものとなっています。また、つづりと発音の関係を取り扱うページも4ページ取られており、導入期を特に意識した構成となっています。

各レッスンは、教科書見開き両ページで一まとめとなり、左側には本文、右側にはターゲットと、それをういた言語活動がしやすい構成となっています。また、配色が鮮やかで、全体的に明るい印象を受けます。表現力を育てることを目的としたChapter Projectは、内容が充実し、スピーチや書く力の充実を図っています。

2年生、3年生の巻末のミニ辞典コーナーでは、今までに学習した単語が全てあり、既習学年が色別で示されています。また、Check It Outでは、文法のまとめが品詞で色分けしているところがあって、生徒にとっては理解しやすくなっておりま。

先ほど申しあげましたように、本教科書も、受動態が3年生から始まっております。

次に、三省堂「NEW CROWN」についてです。1年生では、オリンピックを意識した題材を、また、3年生ではキング牧師について取り上げるなど、生徒の興味を引くものが多くあります。各Lessonの構成は見開き、Getでは左側が本文、右側がアクティビティとなっており、4技能がバランスよく指導しやすくなっています。Useでは、読むこと、話すこと、そして書くことにも重点が置かれています。

また、各Lessonで、新しく取り扱う文法表現の取り扱いについて、まとめて取り扱うものがあります。例えば、第2学年のLesson2のbe動詞の過去形では、GetのPart1で、肯定文、疑問文と応用文、そして否定文が一度に取り扱われて、Part2では、過去進行形と接続詞Whenが同時に取り扱われています。

次の、UseのReadで、それまでの文法事項が入った文章の長文が、教科書両面に展開され、読解力の向上を狙っています。その次のUseのSpeakでは、絵の場面を表現する英語を、書いたり話したりさせている内容となっています。新出文法事項をまとめて教えてから、定着のためのアクティビティや、文章理解、表現力の指導という順番になっています。

フォントは、レッスンごとにも変わりますが、いずれも読みやすいものとなっています。また、挿絵も構図、色あいともに刺激が少ないです。

各レッスン以外の単語、表現、発想などを扱うページもバランスよく、しかもわかりやすく取り扱われています。生徒は、学習内容を整理しながら学習が進められると思います。

次に、教育出版「ONE WORLD」です。2冊の構成となっています。一方は、一般の教科書として機能しています。もう一方は、別冊として、教科書の巻末に収納される形となっており、各単元の定着と、学習内容の活用を図るためにあります。書き込み式ではなく、答えの赤い文字を、赤いシートで見えないようにして、学習者が考えるというものです。教科書自体の色彩は鮮やかで、印象は強く、挿絵や写真は充実していますが、他社と比較すると、文字はやや小さく感じます。

1年生の巻末の大きなカードは、タイプなど実際の大きさのもので、紙の質もよく、使いやすい工夫をしています。

各Lessonの構成は、HopとStepが、それぞれ2つのPartがあり、一つのLessonにPart 4まであり、その後にJumpと続いています。各Lessonが長いものになっています。また、Hopで出てくるTool Kitでは、生徒の表現力を高める表現が多く出てきます。また、「英語の仕組み」では、文法事項が簡潔にまとめてあり、学習事項が整理されやすくなっています。内容は、生徒の興味や関心を高めるものが多いですが、第3学年の京都への修学旅行については、和食のみがLessonを通してずっと取り扱われており、生徒の関心に結びつくかどうか、意見の分かれるところだと思います。

次に、光村図書「COLUMBUS」についてです。写真や挿絵は、各学年とも優しい色あいで構成されています。文字の大きさも、各学年の発達段階に適しています。1年生、2年生は、会話形式のページが多く、口語表現からの定着を狙っていると考えられます。3年生になると、読み物としての題材が増え、ある程度まとまった読解力を育成できると考えられます。

第1学年の導入期、Unit 1とUnit 2では、小学校での外国語活動からの接続を意識した言語材料が用いられています。導入期としては若干文字が多めになっています。一般動詞の学習で生徒がつまずきやすい、三人称単数現在のsの学習が、11あるUnitの第7番目のUnitで取り扱われています。英語に十分慣れたところで学習させようという慎重な狙いを感じます。秋ごろの導入となるので、三人称を対象とした英語表現の広がりはこの時期からとなり、それ以前の言語活動に工夫をしなければならぬと思いました。

各Unitは見開きで、左側が本文、右側が基本文や4技能の向上を図るための言語活動という構成になっています。

日常的な会話や題材が多く、親しみやすいです。しかし、社会問題等について、生徒が深く考え、意見を英語で発表する題材が若干少ないという意見が部会で出ました。

最後に、教科書のサイズについてですが、学校図書と教育出版の2社の教科書のサイズが、幅18センチ、見開き36センチで現行サイズと同じ。それ以外の教科書会社のものは、幅21センチ、見開き42センチと、大きくなっています。生徒用機の幅は60センチと決まっており、ノートやワークブック、ワークシートのことを考えなければなりません。また、教科書を手に持って音読をする場合、紙面が垂れ下がり読みにくいという意見が、部会の中では出されました。

以上で、外国語の報告を終わらせていただきます。

○坂倉教育長 ありがとうございました。資料作成委員会の報告は終わりました。

英語について、御質疑はございますでしょうか。

○星山委員 2つほど伺いたいののですが、まず、この教科書だけで本当に教えていらっしゃるかというところで、特にリスニングなど、教科書だけでは厳しいかなというところを、他に何かお使いになったり、どのようにして工夫していらっしゃるかということと、それから、現在お使いの教科書について、どういう御感想をおもちかということです。英語は、とても個人差がある科目ではないかと思いますが、一方で、とても大切だと思うので、その考え方で割れるかなという部分もあって、実際に教えていらっしゃる先生が、現在の教科書を使いやすいとあっていらっしゃるかどうか。そのところを伺わせてください。

○堀内教科別調査部会「外国語（英語）」部長 まず、他の教材の件に関してなのですが、教科書だけでは足りないところもあり、ワークブックや、あるいは他の副教材、Readingとか、Speakingというようなことを、教師が自らつくる場合もありますし、他から参

考資料として用いる場合もあります。生徒にとって理解しやすいものを取捨択一するというような形になっていると思います。

教科書を教えるのではなく、教科書で教えるという立場に立っておりますので、教科書の内容をさらに深めるための教材というものは、常に英語の教師は探しているような状況ではないかと思えます。

現在の「TOTAL ENGLISH」でございますが、部員が8名おり、それぞれ意見がありましたが、全員が今の教科書に対しては好意的な意見をもっております。理由としては、唯一、一般動詞から始まっているということ。それから、小中の接続がスムーズに行われているということがあり、あと、内容に関しても、2年生の職場体験や3年生の修学旅行、それから歌手のステイビーワンダーを題材にした障害がある人への理解、あるいは泣いた赤鬼というような小学校で学んだ日本のむかし話があつて、生徒にとっては非常に興味をかきたてられる内容になっております。

また、文字フォントも見やすく、レイアウトもよいということで、非常に使いやすい教科書だという意見が、部会のほうで出ております。

ただ、内容的に、リスニングの項目はあるのですが、それが少し簡単過ぎるかなとか、反対にQ&Aが難し過ぎて、それを補うための指導に少し工夫が必要かなというところはあります。しかし、大きな問題ではなく、全体的には好意的に見られているという状況です。

○坂倉教育長 他にございませんでしょうか。

先ほど、別の教科でもお話があったのですが、今の話ですと、サイズはB5のほうがいいということですよ。どちらかという、学校図書と教育出版のほうがいいというふうなお話でしたが、これがいかにも現場の意見なのかなと思えました。大きいほうがいいのかと思ったら、先ほども同じようなことをおっしゃっていたので、ひとつ参考にしたいと思ったところです。

一つお聞きしたいのは、これは他の教科でも聞いているのですが、教育出版が、「Essentials」という別冊を扱っていることについて、いいところと悪いところとか、どのような議論が出たかという話を聞きたいです。また、それに関連してお聞きしたいのですが、1年生の教科書の17ページに、名前を書かせるところがあつて、日本人の名前の名字のところに、いきなり大文字で書かせているのですが、もちろんこういう書かせ方もあるのですが、現場として、この教え方というのは難しいのかどうか。少し確

認したいと思いました。

○堀内教科別調査部会「外国語（英語）」部長　　まず、分冊のほうですが、補足資料として、保護者の副教材の負担を減らそうという狙いについては、一定の評価はできるところではあります。ただ、この内容で実際に採用になったときのことを考えて協議をしたのですが、使い方を予想したときに、文字が多く、指導によっては少しやりづらいという意見が多く出ました。

また、現状という部分では、各校、副教材を使っている現状を考えると、各学校にあったものを選ぶ選択肢があってもいいかなという意見も出ました。

巻末に収納されるというところで、さまざまなタイプのお子さんがありますので、失くしてしまって、授業中にないということを危惧する声も出てきた次第であります。

以上です。

○竹内教科別調査部会「外国語（英語）」副部長　　それから、1年生の17ページ、名前を書こうというところに関しては、小学校でローマ字をやってきて、多少は抵抗なく書けるかなということはあると思うのですが、いきなりここで名前を書こうという形になっていて、ここに関しては実は理解できないところがありました。例えば「ON0 Ayaka」と書いてあるのですが、「ON0」これは全部大文字で、次のところが「A」が大文字で次から小文字になっているというようなところがあり、統一性がないのではということで、そこら辺でわからないところがあるねという話がありました。

○坂倉教育長　　私はそれに気づいたので、そこを聞いています。確かにこういう書き方もあるのですが、全体的にどちらかというと、頭だけ大文字で教えているではないですか。そういう点で、現場で困らないかということを知っているのです。本当にその部分の議論があったのか疑問なのですが、私は割とこの教科書を評価している中で、その部分が教えにくいかなとすごく思ったので。

○和田委員　　先ほどの質問にも重なってくるのですが、現行の学校図書に関して、内容的には特に問題はないという話を聞いているのですけれども、学習過程を考えたときに、この教科書を使っている子どもが転校をすとか、他の地区から来るとか、そういうような場合の使い勝手の問題や、この教科書を採用していない他のところについて、子どもだけでなく先生についても、これは使い勝手が悪いという評価になっていないのかというあたりです。つまり、同じ地域の中での教科書ということであればいいのですが、いろいろなところへの転校も考えたときに、やはりきちんと学習過程の段階を追って指導

をしている流れと、このように一般動詞から入っていくような流れというのは、どうしても学習の進度が違ってきて、そこでほかの地域との関係がうまくいかないのではないかとこの指摘があったり、そういう議論が以前からあるので、それはどうかというのが一つです。

2つ目は、真逆になるのですが、開隆堂のような、最初にある程度の基本的な学習をしてから本文に入る形は、今は先生方の中では余りしないということですかね。やはり、実用的な会話や場面から入っていくというのが、今の英語教育の流れなのでしょうか。使い勝手の問題もあると思うのですが、その辺はいかがでしょうか。

○堀内教科別調査部会「外国語（英語）」部長　まず、他校から転入したような場合などにどうかということですが、確かに英語の教科書は、題材も教科書によってかなり違い、進度も違ってわかりにくいところはあるのですが、転入生がどこから転入したかによって、大体教員はどんなことを勉強したか、学んでいるかということを生徒に確認します。例えば、この項目はまだ学んでいないといった場合には、参考資料を渡したり、あるいは個人的に指導したりというような形で、その生徒が不利にならないように指導をしていくようなことを心掛けております。

それから、実用的な場面ということは確かに言われておまして、やはり学んだことを日常の中でいかに生かせるかということが課題になってきますので、特に英語の場合は、なかなか日常生活で使うことが少ないということもあるのですが、教科書だけで終わらずに、日常生活の中で、この場面ではこういう英語表現があるというようなことを意識して教えています。そういった意味では、日常的な場面が多くなるという傾向になるかと思えます。

○坂倉教育長　他に御質疑はございませんでしょうか。

○金山委員　扱っている題材といいますか、例文であるとか、お話、説明を含めてなのですが、英語という教科なので、バリエーションが多くあったほうが良いなと思っているのですが、先生の目から御覧になって、いろいろな分野のものを取り入れているなと思われるものはどれでしょうか。

言い方が難しいのですが、例えば、最後のほうに読み物がついているものについていないものがありますよね。どうしても会話からということになりますけれども、長文を読むこともとても大事だと思うのですが、そのあたりの必要性というのはいかがでしょう。例えば、盲導犬のことを取り上げていたり、アンネの日記があったりしますよ

ね。そういうことに対しての評価は、どのようにお考えになりますか。

○竹内教科別調査部会「外国語（英語）」副部長　内容に関して、生徒は自分の経験や日常生活に結びつくようなもの、あるいはテレビや雑誌などで話題になったこと、そういったものを非常に興味をもって読むことができるのです。そういった意味で、生徒の興味を引くような読み物は、教科書によって違いますし、配列ももちろん違うので、どの教科書がこうだということは言えないのですが、それぞれ各教科書で工夫されているな、各社で中学生の興味・関心を調べているなというのを感じております。ただ、教科書によって、量など、多少は違ってくるのかなという感じがあります。

○坂倉教育長　今、きれいな答えをしたけれども、恐らく、金山委員が聞きたかったのは、そこではないと思うのですよね。3年生になっても文学作品をもってきていない教科書がある。一方で、音声教材を完全に前提にしている教科書がある。要するに、今の流れの中で、話すことができる英語にするのか、やはり少し書く英語もやるかというあたりで、かなりスタンスが違うと思うので、我々としてはどこを選ぶかという中で、客観的なことを聞きたかったのではないかと思います。

いくつかの社は、3年生になっても文学作品はないです。逆に、どこも使うのでしょいうが、音声教材がなかったら学ぶことができない教科書もかなりありますよね。その辺のところの現実はどうなのかというのを聞きたかったのかなと思うのですが、我々の判断で選ぶのだと思います。

他に御質疑はございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○坂倉教育長　よろしいですか。では、資料作成委員会の方は、御退席いただいて結構です。

御意見がありましたら、お願いいたします。

なかなか難しい問題なのですが、今は実用的に話すことができるということが大切だという話をお聞きしていて、確かに話せることがたくさん入ってこなくてはいけないと思うのですが、やはり一定程度の文法も必要だとすると、私は、そういう意味でバランスがとれたというか、読む、あるいは書くというようなことにも力を入れているところを選んでいきたいという意識をもちました。

他に御意見があったらどうぞ。

○金山委員　私もそうなのですが、読むものに関して、文学作品といっても、恐らく小さいころに翻訳したものを読んだことがあるようなものが多いので、一つ、二つは中学生の

間にそれを読んでおくということが、何か糧になるのかなという気がしました。英語は国際的なところで使えるものなので、いろいろな分野の、例えばアンネの日記を読んでおくというのも、盲導犬の話を英語で考えてみるというのも、とても大事なのかなと。そういう意味で、単なる会話であるとか、日常生活以外のことも、ある程度入っているほうがいいのかという気はしました。

○星山委員 英語教育はとても大切なものだと思うのですが、私自身も、3年ほど海外に出て勉強していて、日本の英語教育の中で育ち、海外で学ぶことになって一番苦労するのは、やはりスピーキングとリスニングで、すごくつらかったです。やはり、そのギャップをどうするかというところは、教科書の中ですごく工夫されていると思うのですが、今度は教える側が、そこの教育を十分受けられるチャンスがなかったところで、これからどのようにしていくかというのが課題だなと思いました。教科書会社の方も工夫していってほしいのではないかなと思ったことと、そこを補いながら、どのように採択していくかということだと思いました。

○坂倉教育長 ほかに御意見はよろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○坂倉教育長 それでは、事務局は興水委員をお呼びください。

○坂倉教育長 本日、予定しておりました種目の質疑は、全て終了しましたので、各委員の意見集約をしたいと思います。

お配りしてある用紙への御記入をお願いしたいと思います。

〔各委員用紙記入〕

○坂倉教育長 よろしいでしょうか。

それでは、事務局は用紙を回収し、この場で封筒に入れて封印してください。

〔記入用紙回収・封印〕

○坂倉教育長 それでは、ただいま封印した用紙は、8月5日まで事務局で厳重に保管願いたいと思います。

他に何か報告することはございませんでしょうか。

○廣瀬学校教育部長 ございません。

○坂倉教育長 以上で、定例会での審議は終わりますが、委員の方から何かございますでしょうか。

私のほうから1点。

各小中学校に消防署の方が来て、救急車、消防車をもってきてくださって、「働く車」という形で、主に小学生の、中学生も一部いるのですが、子どもたちがそれを描いた絵を市役所1階ロビーに展示しておりますので、お時間がありましたら、委員の方々、また傍聴の方々も、ぜひ見ていただけると、八王子の子どもたちの日ごろの絵画活動がわかると思いますので、お願いしたいと思います。

また、戦後70周年ということで、郷土資料館のほうで、70周年を記念した特別展示を行っております。私は昨日行ったのですが、その中で、当時の教科書などがあり、今の教科書と比べて隔世の感もありまして、ある意味、非常に参考になりましたし、感動もしたところがございますので、もしよろしければ郷土資料館のほうも、ぜひ行っていただければありがたいと思います。

以上で、本定例会の議事日程は全て終了いたしました。

これを持ちまして、本定例会を終了いたします。ありがとうございました。

[午後12時12分閉会]